

令和6年度

弘前大学地域創生本部年報



国立大学法人

弘前大学

HIROSAKI UNIVERSITY

目 次

はじめに（ご挨拶）

弘前大学地域創生本部長・弘前大学長 福田 眞作	1
-------------------------	---

I. 地域創生本部の体制

1. 地域創生本部について	2
2. 地域創生本部 構成員名簿	3

II. 地域創生本部の活動

1. 地域創生本部事業	6
（1）青森県における科学的根拠に基づくがん検診推進事業	6
（2）広報活動	8
2. 地域連携推進部門事業	8
（1）青森創生人財育成・定着推進協議会における取組	8
（2）青森版地域連携プラットフォーム設立に向けた取組	11
（3）あおもり人材育成・県内定着促進協議会の設立および参画	12
（4）青森県内自治体等との包括連携協定の締結	12
（5）青森県内自治体等との連携調査研究事業	13
（6）青森県内自治体首長及び企業経営者等を講師とした講演会の開催	15
（7）地方創生ネットワーク会議	16
（8）大学コンソーシアム学都ひろさき	17
3. 地域創生人材育成部門事業	22
（1）弘前大学地域創生本部連携推進員	22
（2）弘大じょっぱり起業家塾	25
4. ボランティアセンター事業	27
（1）ボランティア登録者数、ボランティア活動参画者数	28
（2）ボランティアセンターの活動	28

III. サテライト

1. 八戸サテライト	32
2. 青森サテライト	32
3. サテライトキャンパス	33

IV. 各学部・研究科等における公開講座等の実施状況

1. 実施件数・参加人数	36
2. 公開講座等一覧	37

V. 各学部・研究科等の地域連携・地域貢献に関する取組事例

80

はじめに

弘前大学地域創生本部では2022（令和4）年度より、地域創生本部及びその下で事業を推進するために設置された地域連携推進部門、地域創生人材育成部門、ボランティアセンターの施策や事業実績等をまとめた「弘前大学地域創生本部年報」を発行しております。

本年報は、本学各学部・研究科等の協力も得て、地域創生本部以外の公開講座や地域連携・地域貢献に関する取組の実施状況も収録して、本学全体の地域連携・地域貢献活動を紹介していますので、本学の取組に対する理解を深めていただければ幸いです。

令和6年度は、本学の第4期中期目標期間の3年目にあたります。社会全体が新型コロナウイルス感染症からの回復に向かう中、感染症法上の分類変更（令和5年5月8日より「5類」）を経て、本学でも各種活動がコロナ禍以前の水準へと回復しつつあります。このような環境下において、本学の教育・研究成果を地域課題の解決に活用し、地域と連携した取組を推進するとともに、地域を牽引する人材の育成や、県内自治体・企業等とのネットワーク強化を通じて、地域の中核拠点としての大学の役割を果たすべく、多様な活動を展開しております。

弘前大学は以前から、「世界に発信し、地域と共に創造する」とのスローガンの下に、高等教育機関としての役割を追求してきました。これからも地域活性化の中核拠点としての機能充実・強化を促進し、「地域を支え、地域から支えられる大学」の形成を目指すとともに、今まで培ってきた強固な地域連携を基盤として、しっかりと地域貢献を実現しつつ、得られた教育研究の成果を全国、そして世界に広げていく所存です。引き続きご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

弘前大学地域創生本部長
弘前大学長
福田 眞 作



I. 地域創生本部の体制

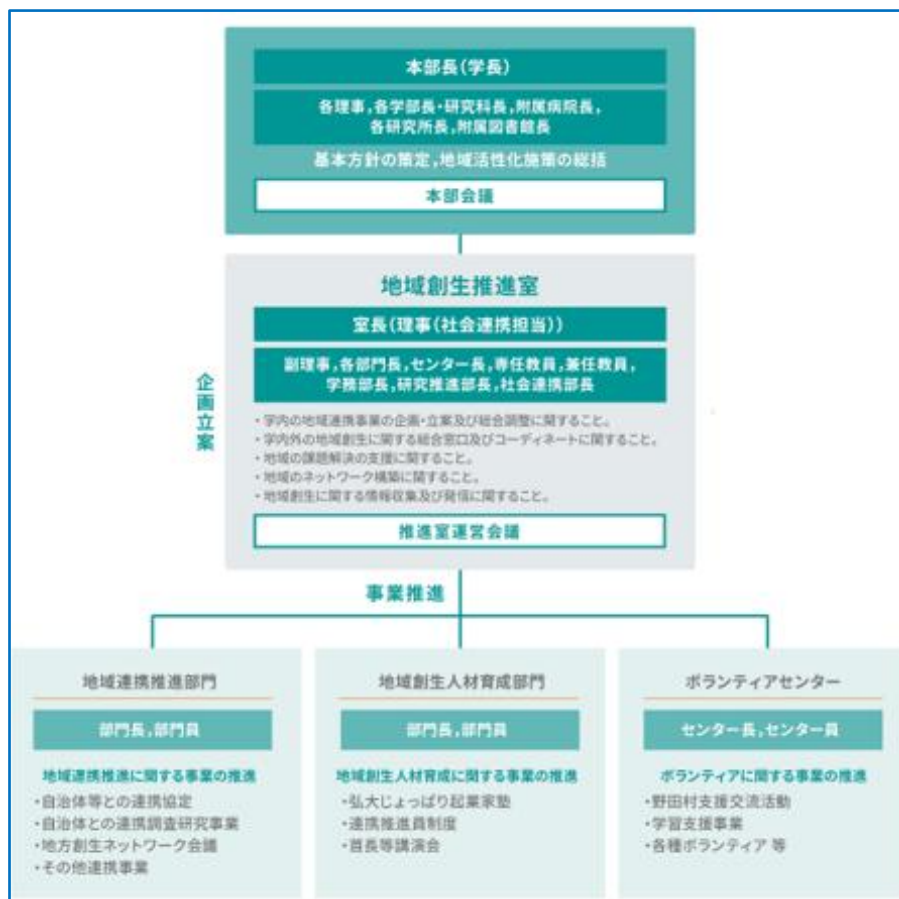
1. 地域創生本部について

地域活性化の中核的拠点としての機能の充実・強化に向けて、地域の特性を活かした地域活性化施策を大学一体となって総合的かつ計画的に推進するため、理事（社会連携担当）を機構長として設置していた全学組織「弘前大学社会連携推進機構」を発展的に改組して、平成30年10月、学長を本部長とする「弘前大学地域創生本部」を新たに設置し、全学的な推進体制を整備。

組織のトップを学長が務め、全ての理事、学部長・研究科長等を構成員とする本部は、地域活性化に関する施策の基本方針を策定し、地域活性化の観点で学内組織を横断的に総括する役割を担う。平成31年4月には「地域活性化に関する施策の基本方針」を策定。

本部内に設置する「地域創生推進室」は、基本方針を踏まえた本部の運営、地域活性化施策の企画・立案や総合調整を行うとともに、総合窓口機能の強化に取り組む。推進室には、地域社会の情勢等に精通する専任の実務家教員1名（准教授）を副室長として配置し、さらに、地域からの要請に基づく地域課題解決やイノベーション創出の一層の促進、また、青森県全域で取り組む人材育成・地元定着に向けた取組を重点的に進めていくため、専任教員1名（助教）を配置している。また、事業推進のため、本部内に「地域連携推進部門」「地域創生人材育成部門」「ボランティアセンター」の3部門を設置している。

地域創生本部 組織図



地域活性化に関する施策の基本方針（平成31年4月24日策定）

1. 地域活性化に寄与する研究や教育を通じて、自治体や企業、地域の団体等と連携し、地域課題の解決に取り組む。
2. 地域課題を取り入れた教育を展開するとともに、グローバルな視点を持ち地域を牽引するリーダーやコーディネーターなどの地域活性化に貢献する人材育成に取り組む。
3. 地域との連携を推進するための企画・調整を一元的に行うとともに、ネットワーク形成の強化を図りつつ、積極的に情報発信する。

2. 地域創生本部 構成員名簿

地域創生本部

令和6年7月1日現在

所属・職名	氏 名	備 考
学長	福田 眞作	本部長
理事（社会連携担当）	橋本 恭男	副本部長
理事（企画担当）	若林 孝一	
理事（総務担当）	藤波 豊彦	
理事（教育担当）	岡崎 雅明	
理事（研究担当）	曾我 亨	
理事（特命担当）	佐野 輝男	
人文社会科学部長	飯島 裕胤	
教育学部長	高瀬 雅弘	
農学生命科学部長	東 信行	
大学院医学研究科長	石橋 恭之	
大学院保健学研究科長	敦賀 英知	
大学院理工学研究科長	金本 俊幾	
大学院地域社会研究科長	森 樹男	
大学院地域共創科学研究科長	片岡 俊一	
医学部附属病院長	袴田 健一	
被ばく医療総合研究所長	床次 眞司	
地域戦略研究所長	東 信行	
グローバルWell-being総合研究所長	石橋 恭之	※令和6.7.1新規（研究所新設）
附属図書館長	羽瀧 一代	

地域創生推進室

令和6年4月1日現在

所属・職名	氏 名	備 考
理事（社会連携担当）	橋本 恭男	室長
人文社会科学部 教授	森 樹男	副室長
地域創生本部 准教授	館 栄	副室長、専任教員
副理事	小野 厚志	
人文社会科学部 教授	李 永俊	
教育学部 准教授	佐藤 光輝	
農学生命科学部 教授	石塚 哉史	
農学生命科学部 准教授	前多 隼人	
大学院医学研究科 助教	沢田 かほり	
大学院保健学研究科 准教授	高橋 純平	
大学院理工学研究科 教授	片岡 俊一	
大学院理工学研究科 教授	佐々木 一哉	
大学院地域社会研究科 教授	平井 太郎	
大学院地域社会研究科 准教授	土井 良浩	
地域戦略研究所 准教授	永長 一茂	
男女共同参画推進室 助教	山下 梓	
地域創生本部 助教	（欠員）	専任教員
学務部長	山口 敬一	
研究推進部長 （兼）社会連携部長	古舘 賢樹	

地域連携推進部門

令和6年4月1日現在

所属・職名	氏 名	備 考
人文社会科学部 教授	森 樹男	部門長
大学院理工学研究科 教授	佐々木 一哉	副部門長
教育学部 准教授	佐藤 光輝	
農学生命科学部 准教授	前多 隼人	
大学院地域社会研究科 准教授	土井 良浩	
地域戦略研究所 准教授	永長 一茂	
研究推進部長 （兼）社会連携部長	古舘 賢樹	

地域創生人材育成部門

令和6年4月1日現在

所属・職名	氏 名	備 考
大学院理工学研究科 教授	片岡 俊一	部門長
農学生命科学部 教授	石塚 哉史	副部門長
大学院医学研究科 助教	沢田 かほり	
大学院保健学研究科 准教授	高橋 純平	
研究推進部長 （兼）社会連携部長	古舘 賢樹	

ボランティアセンター

令和6年4月1日現在

所属・職名	氏 名	備 考
人文社会科学部 教授	李 永俊	センター長
人文社会科学部 教授	平野 潔	副センター長
教育学部 准教授	高橋 俊哉	副センター長
農学生命科学部 准教授	石本 雄大	
大学院医学研究科 准教授	富田 哲	
大学院保健学研究科 准教授	扇野 綾子	
大学院理工学研究科 准教授	藤崎 和弘	
大学院地域社会研究科 教授	平井 太郎	
男女共同参画推進室 助教	山下 梓	
学務部長	山口 敬一	
研究推進部長 (兼) 社会連携部長	古舘 賢樹	

Ⅱ. 地域創生本部の活動

1. 地域創生本部事業

(1) 青森県における科学的根拠に基づくがん検診推進事業

本事業は、青森県の地域課題である「短命県返上」に向けて、新たな施策の提案を行い、がん検診受診率が高いにも関わらず、がんの年齢調整死亡率が全国的に下位となっている本県の状況を脱却することを目的として、本学学長の提案を機に、青森県と連携して令和3年3月から取り組んでいる事業。

事業実施にあたっては、本学学長をはじめとして、青森県医師会長、青森県市長会・町村会の各代表者、青森県総合健診センターの代表者、青森県保健所長会の会長、市町村保健師の代表者、青森県健康福祉部長、がん検診・がん医療の有識者で構成される会議体「青森県における科学的根拠に基づくがん検診推進委員会」を新たに設置。青森県一丸となって、地域課題の解決に向けて取り組みを推進していくため、様々な方向から検討が重ねられた。令和3年11月、会議体によって「青森県における科学的根拠に基づいたがん検診の要綱案」がまとめられ、青森県知事に提言書を提出。青森県は、この提言を受け、令和4年3月、「青森県におけるがん検診事業の実施に関する要綱」を策定した。

この要綱により、今後、関係機関が共通認識の下で、県民に対して科学的根拠に基づく適切で質の高いがん検診事業を提供することにより、がんの死亡率を減少させることを目指す。また、より多くの県民に対して科学的根拠に基づく適切で質の高いがん検診事業を提供する機会を高めることにより、がんの死亡率減少につなげていくことを目指す。

①令和6年度 青森県における科学的根拠に基づくがん検診推進委員会 名簿

所属・職名	氏 名	備 考
弘前大学長	福田 眞作	委員長
青森県医師会 会長	高木 伸也	青森県医師会の代表者
黒石市長	高樋 憲	市町村（市部）の代表者
野辺地町長	野村 秀雄	市町村（町村部）の代表者
青森県総合健診センター 常務理事	下山 克	青森県総合健診センターの代表者
青森県保健所長会 会長	齋藤 和子	青森県保健所長会の代表者
むつ市健康づくり推進部 健康づくり推進課長	高橋 嘉美	市町村保健師の代表者
青森県がん検診管理指導監	齋藤 博	有識者（がん検診・県内）
J A長野厚生連佐久総合病院 佐久医療センター総合医療情報センター	雑賀 公美子	有識者（がん検診・県外）
弘前大学医学部附属病院 臨床試験管理センター 准教授	松坂 方士	有識者（疫学）
弘前大学大学院医学研究科 産科婦人科学講座 教授	横山 良仁	有識者（がん医療）
弘前大学大学院医学研究科 呼吸器内科学講座 教授	田坂 定智	有識者（がん医療）
青森県健康福祉部長	守川 義信	

②有識者等による座談会（令和４年４月20日）

令和4年度は、科学的根拠に基づくがん検診を推進することの目的・必要性について、医療機関・検診実施機関をはじめ、より多くの県民に理解してもらうことを目的として、有識者等による座談会を開催し、その内容を新聞広告に掲載した。また、市町村等ががん検診事業に従事している方を対象として研修会を開催した。



「東奥日報 2022年5月27日掲載」

③がん対策連携シンポジウム（令和6年1月21日）

令和5年度は、科学的根拠に基づくがん検診を推進することの必要性について、医療機関・検診実施機関をはじめ、より多くの県民に理解してもらうことを目的として、「青森県と弘前大学のがん対策連携シンポジウムー青森県からの日本一のがん対策・がん検診を目指してー」を開催した。

シンポジウム当日は、青森県内の医療機関及び検診実施機関の医療従事者、行政のがん検診担当者、がん検診に関心のある県民等が多数参加し、宮下青森県知事や本学学長をはじめとする有識者の講演やディスカッション、知事・有識者とフロアとの意見交換により、「科学的根拠に基づくがん検診」の必要性について理解を深めた。



④東奥日報への広告掲載（令和7年3月15日）

令和6年度は、青森県における科学的根拠に基づくがん検診事業を推進する目的や必要性について、イラスト等を交え、わかりやすい内容で解説する広告を東奥日報に掲載し、その推進を図った。

（2）広報活動

①地域創生本部パンフレット

地域創生本部の情報発信活動の一環として、地域創生本部パンフレットを作成し、地域創生本部ホームページに掲載している。パンフレットは、毎年、内容を更新し発行している。

（URL）<https://chiiki.hirosaki-u.ac.jp/about/annual/>



②地域創生本部X（旧Twitter）公式アカウント開設

地域創生本部の情報発信活動の一環として、令和4年2月に公式アカウントを開設し、主に地域創生本部の活動を発信している。

2. 地域連携推進部門事業

（1）青森創生人財育成・定着推進協議会における取組

国からの補助事業として令和元年度まで実施していたCOC+事業（オール青森で取り組む「地域創生人財」育成・定着事業）の取り組みを令和2年度以降も継続して実施していくため、弘前大学が主導して新たな枠組みの構築や青森県内高等教育機関への参画要請を行い、COC+事業に参画していた10校に3校を加え13校を構成員とする「青森創生人財育成・定着推進協議会」を令和2年9月に新たに設置。同年10月には3校を追加して16校となり、県内全ての高等教育機関が参画する組織体として、青森県内全域で地域人財の育成と学生の県内定着に資する取組を実施するための体制を確立した。青森県内に4つのブロック（青森、弘前、八戸、むつ）を置き、ブロック毎に学生の地元定着に資する事業を展開している。

また、本協議会の設置（令和２年９月）に併せ、協議会の下に、高等教育機関・自治体・経済団体等の実務担当者で構成される「産官学情報交換会」を設置し、県内地域の若者定着促進に向けた各種事業の実施について意見交換及び協議を行うなど、地域課題の認識等について産官学間で情報共有を図っている。

①青森創生人財育成・定着推進協議会

構成員（16校）

令和６年４月１日現在

所属・職	氏 名	備 考
弘前大学長	福田 眞作	会長
青森公立大学長	神山 博	
青森県立保健大学長	吉池 信男	
柴田学園大学長	吉澤 結子	
八戸工業大学長	坂本 禎智	
青森大学長	澁谷 泰秀	
弘前学院大学長	藁科 勝之	
八戸学院大学長	水野 眞佐夫	
青森中央学院大学長	佐藤 敬	
弘前医療福祉大学長	下田 肇	
柴田学園短期大学部長	島内 智秋	
青森明の星短期大学長	花田 慎	
青森中央短期大学長	山田 順子	
八戸学院大学短期大学部学長	杉山 幸子	
弘前医療福祉大学短期大学部学長	下田 肇	
八戸工業高等専門学校長	土屋 範芳	

②産官学情報交換会

構成員

令和６年４月１日現在

所属・職	氏 名	備 考
弘前大学副理事	森 樹男	会長 弘前大学選出
青森中央学院大学地域連携センター長	成田 昌造	弘前大学以外の高等教育機関選出
八戸工業高等専門学校副校長	南 將人	同上
青森県総合政策部総合政策課長	田澤 謙吾	自治体等選出
青森県子ども家庭部若者定着還流促進課長	野田 保	同上
青森県市長会事務局長	舘山 新	同上
青森県町村会常務理事・事務局長	原田 啓一	同上
青森県商工会議所連合会常任幹事	葛西 崇	経済団体等選出
青森県中小企業団体中央会副会長・専務理事	菅 孝	同上
青森県商工会連合会専務理事	前多 正博	同上

●令和6年度青森創生人財育成・定着推進協議会の開催

令和6年7月1日、オンラインにより「令和6年度青森創生人財育成・定着推進協議会」を開催、16校から学長等が出席し、以下について報告及び協議がなされた。

- 議事
1. 令和5年度における事業実績について
 2. 学生の意識調査について
 3. (仮称) あおもり人材育成・県内定着促進協議会について
 4. 青森創生人財育成・定着推進協議会の廃止について
 5. その他

本協議会はこれまで、県内16高等教育機関による協議とは別に、産官学の実務者による情報交換の場を設けて学生の県内定着に向けた取組を進めてきたが、これら2つの組織を一体化させ、新たな地域連携プラットフォームとして、あおもり人材育成・県内定着促進協議会が青森県主導のもとに設立されることとなった。そのため、同日、産官学情報交換会の委員も陪席のうえ、新協議会の設立と同時に青森創生人財育成・定着推進協議会を廃止し、従来の取組の場を新協議会へと移行することが了承された。

③学生の地元定着に向けた取組

i) 学生の意識調査

青森県における、若者の県内定着に向けた取組を検討する際、学生の考えを反映させた、より効果的な取組を進めるうえでの基礎資料とするため、令和6年6月～8月に、県内大学等15校の協力の下、各校に在籍する学生を対象に就職地選択に関する意識等についてアンケートを行った。

その分析結果は、あおもり人材育成・県内定着促進協議会での取り組みの方向性を決める資料として活用された。また、地域創生本部HPでも公開している。

※参加大学：青森公立大学、青森県立保健大学、柴田学園大学、弘前学院大学、八戸工業大学、八戸学院大学、青森大学、青森中央学院大学、弘前医療福祉大学、弘前医療福祉大学短期大学部、柴田学園大学短期大学部、青森明の星短期大学、青森中央短期大学、八戸学院大学短期大学部、八戸工業高等専門学校

(URL) <https://chiiki.hirosaki-u.ac.jp/202504-14151/>

ii) 効果的な情報発信で学生に選ばれる企業を目指した取組

●オンライン1/8dayワークショップ

11月29日、株式会社高橋製作所（八戸市）の協力のもと、令和4年度に本学及び㈱東北博報堂により制作した「オンライン1/8dayワークショップ～青森で就活～」モデルをベースに、より汎用性の高いプログラムの制作・実施を目指しデモを実施した。5名の学生が参加し、企業にとっては学生に選ばれる企業を目指した効果的な情報発信を考える機会となった。また、学生には、地域、業界、企業を知り、働き方を知る機会提供の一助となった。

●学生視点での企業HP診断会（就活生による企業採用ページ診断会）

令和7年1月15日、令和5年度に本学及び㈱東北博報堂により制作した「自社の採用ページに関するチェックシート」を活用し、県内4企業に対して実施した。15名の学生が参加し、就活生の目線で県内企業の採用ホームページを診断、評価し、学生の意見を伝えた。

iii) あおもり創生☆News（ニュースレター）の発信終了

青森創生人財育成・定着推進協議会を構成する県内16高等教育機関の担当者間で、各大学の地元定着に向けた取組や、協議会の様子などを共有することを目的として、令和3年5月に「あおもり創生☆News」と称したニュースレターの配信をスタート。これまでに2ヶ月に1回程度の頻度で配信してきたが、新協議会が発足したことに伴い、青森創生人財育成・定着推進協議会はその役割を終えたことから、No. 13の最終号をもって発信を終了した。

(URL) https://chiiki.hirosaki-u.ac.jp/wp-content/uploads/2024/08/newsletter_13final.pdf

iv) 起業支援事業の実施

学生等の県内における起業支援事業として、ホップ・ステップ・ジャンプの3段階による教育プログラムのうち、弘前大学地域創生本部において「ジャンプ」にあたる事業を実施した。ホップとしては、教養教育科目で初年次学生を対象に、アイデア出しに関する様々な手法をワークショップ形式で学習する「発想筋を120%にアップ」を、ステップとしては、弘前大学人文社会科学部で高年次学生を対象に、実務家の指導のもと、地域企業から提示された経営課題に対して企画提案を考える「事業計画演習」及び「ビジネス戦略演習」を実施している。地域創生本部ではジャンプの段階の事業として、将来地域で活躍したい社会人や学生を対象に、「弘大じょっぱり起業家塾（基礎・実践コース）」を6月から12月にかけて講義と演習を計9回実施した。

(2) 青森版地域連携プラットフォーム設立に向けた取組

県内16高等教育機関による「青森創生人財育成・定着推進協議会」を令和2年度に設立し、地域の課題を解決できる人材の育成や学生の地元定着を目指した取組を推進してきた。

しかし、これら課題解決のため、



自治体や経済団体等を含めた新たな組織への移行が必要となったため、令和5年度、本学理事（社会連携担当）のもと、新たな組織の在り方や方向性等について検討し、青森県及び関係団体と協議・調整を進めた結果、青森版地域連携プラットフォームである「あおり人材育成・県内定着促進協議会」が令和6年度に青森県により設立されることが決定した。

（３）あおり人材育成・県内定着促進協議会の設立および参画

令和6年7月29日、青森県主導のもと、県内大学等、産業団体、青森労働局等で構成される「あおり人材育成・県内定着促進協議会」が設立された。

設立後は、県内の大学・自治体・産業界の密接な連携のもと、人材育成や学生の地元定着の促進に向けた取組が実施された。令和6年度は県事業として、「大学教授と企業との交流会」、「県内企業におけるフィールドワーク」、「県内企業見学バスツアー」、「大学生と企業との座談会」が示され、各大学等が参加した。

本学参加事業：・大学教授と企業との交流会

- ・県内企業におけるフィールドワーク
- ・県内企業見学バスツアー



（４）青森県内自治体等との包括連携協定の締結

複雑化する地域課題の解決やイノベーション創出を大学・自治体・産業界が一体となって実現していくことを目指して、弘前大学は、県内自治体や金融機関等と包括連携協定を締結し、地域連携体制の一層の充実を図っている。

令和6年度は、令和6年5月に十和田市、東北町、11月に八戸商工会議所と包括連携協定を締結した。これにより、包括連携協定締結数は累計45件となった。（詳細は以下①②③を参照）。このうち、県内自治体との包括連携協定について、第4期中期目標期間の目標を前倒しで達成し、令和6年度は2件の協定締結となった。これにより、県内自治体との包括連携協定締結数は累計25件となった。

①十和田市と包括連携協定を締結

令和6年5月21日、十和田市との包括的な連携協定を締結した。県内自治体との包括連携協定は24件目。協定締結式は十和田市役所にて執り行われ、十和田市からは小山田市長ら4人、弘前大学からは福田学長ら4人が出席した。

本協定を契機として、具体的な連携事業を行う。その一例として、「十和田市内出土遺物調査」では、十和田市史編纂の「特別編」として実施するものであり、Smf（3Dソフト）を活用した土器の実測図作成等により文化的価値の調査を行うこととしている。

(URL) <https://chiiki.hirosaki-u.ac.jp/202405-12319/>



②東北町と包括連携協定を締結

令和6年5月28日、東北町との包括的な連携協定を締結した。県内自治体との包括連携協定は25件目。協定締結式は東北町役場にて執り行われ、東北町からは長久保町長ら3人、弘前大学からは福田学長ら3人が出席した。本協定を契機として、具体的な連携事業を行う。その一例として、「新館神社伝来の仏像および八幡神楽伝来の神楽面の調査研究」では、西暦1200年創建の新館神社が所蔵する仏像4体・神楽面28面の文化的価値の調査を行うこととしている。

(URL) <https://chiiki.hirosaki-u.ac.jp/202405-12385/>



③八戸商工会議所と包括連携協定を締結

令和6年11月26日、八戸商工会議所との包括的な連携協定を締結した。県内の商工会議所との包括連携協定締結は今回で3件目。協定締結式は八戸商工会館にて執り行われ、八戸商工会議所からは武輪会頭ら3人、弘前大学からは福田学長ら3人が出席した。

平成14年の『弘前大学八戸サテライト』設置以来、県南地域との密接な連携を図り、産学官の研究協力、生涯学習、広報活動等を行ってきたところであるが、本協定を契機として、さらなる県南企業との密接な関係構築が可能となり、企業との課題共有や解決等に向けた取組みを行うこととしている。

(URL) <https://chiiki.hirosaki-u.ac.jp/202412-13199/>



(5) 青森県内自治体等との連携調査研究事業

包括連携協定を締結した県内自治体等との特色ある連携事業として、本学が有する研究シーズを活用して各自自治体等が直面している地域課題を解決することを目的とした「連携調査研究事業」を平成28年度から展開している。

本事業の件数は、事業をスタートさせた平成28年度の4件から、令和6年度は26件と6倍強の水準に増加している。これまでの成果として、平川市との連携事業では市所蔵文化財の整理・データベース化及び適切な保管や展示方法を本学の知見を活用して進め、平川

市郷土資料館のリニューアルオープンにつなげたこと、また、田子町では、地元産品のニンニクについてDNA情報を用いた品種識別方法の特許出願を行ったことなど、地域課題の解決に向けた各自治体の取組に本学が大きく貢献している。

令和6年度 連携調査研究事業一覧

1	鰯ヶ沢町	「鰯ヶ沢町“にぎわい”創出プロジェクト」に関する調査研究	教育学部 特任教授 北原 啓司 地域社会研究科 准教授 土井 良浩
2	鰯ヶ沢町	「鰯ヶ沢町“漁師町魅力発見”プロジェクト」に関する調査研究	教育学部 特任教授 北原 啓司 地域社会研究科 准教授 土井 良浩
3	鰯ヶ沢町	襖下張り文書の保存と活用に関する研究	人文社会科学部 准教授 片岡 太郎
4	鰯ヶ沢町	「令和4年度鰯ヶ沢町8月豪雨災害」に関する調査研究	教育学部 教授 小岩 直人
5	平川市	市有財産の利活用に関する調査研究	地域社会研究科 准教授 土井 良浩 教育学部 特任教授 北原 啓司
6	田子町	田子町特産ニンニクの低環境負荷型栽培法の開発	農学生命科学部 准教授 高田 晃
7	田子町	田子町の第1次産業の担い手と労働力確保に向けた受援力向上対策	農学生命科学部 助教 高野 涼
8	田子町	四川キュウリの栽培試験	農学生命科学部 教授 前田 智雄
9	南部町	達者村開村20周年記念に関連した地域活性化の企画の立案と実施に関する事業	人文社会科学部 准教授 大倉 邦夫
10	南部町	ジュノハートのマーケティング戦略の構築に関する調査研究	農学生命科学部 教授 石塚 哉史
11	蓬田村	高収益野菜（玉ねぎ等）の栽培調査研究	農学生命科学部 教授 前田 智雄
12	東通村	東通村農業施策調査研究事業	農学生命科学部 教授 前田 智雄
13	東通村	東通村社会的基盤強化調査研究事業	地域社会研究科 教授 内山 大史
14	三戸町	青森県三戸町産「つくね芋」の健康機能性成分の分析・評価研究	農学生命科学部 准教授 前多 隼人
15	三戸町	三戸町小中一貫教育における9年間を見通した英語科指導の確立	教育学部 准教授 佐藤 剛
16	黒石市	IoTシステムによる礫耕栽培メロンの栽培環境・生育状態の可視化	農学生命科学部 教授 張 樹鬼 教授 叶 旭君
17	黒石市	産学官連携新家畜導入研究事業	農学生命科学部 教授 松崎 正敏
18	中泊町	令和6年度宮越家資料調査研究	人文社会科学部 教授 原 克昭 同 助教 佐々木あすか 同 助教 中野 顕正 同 非常勤講師 尾崎名津子 同 客員研究員 植木 久行
19	藤崎町	堰神社関係資料解析研究	人文社会科学部 教授 原 克昭

20	七戸町	七戸町が保有する再エネを活用した地域活性化事業	地域戦略研究所 所長 東 信行
21	七戸町	史跡ニッ森貝塚出土資料の研究	人文社会科学部 教授 上條 信彦
22	五戸町	五戸町有古文書調査	人文社会科学部 助教 古川 祐貴
23	今別町	いまべつ牛のブランド化に関する調査研究	農学生命科学部 教授 石塚 哉史 同 教授 松崎 正敏
24	十和田市	十和田市内出土遺物調査	人文社会科学部 教授 関根 達人
25	十和田市	奥入瀬溪流環境調査	教育学部 教授 小岩 直人 農学生命科学部 准教授 山岸 洋貴 准教授 加藤 千尋
26	東北町	新館神社伝来の仏像および八幡神楽伝来の神楽面の調査研究	人文社会科学部 助教 佐々木あすか

（６）青森県内自治体首長及び企業経営者等を講師とした講演会の開催

弘前大学の幹部職員が、県内自治体や企業等の地域を志向した事業展開や、地方企業としての経営ノウハウに対する見識を深め、大学の地域活性化に向けた取組をさらに推進していくことを目的として、県内自治体首長や企業経営者等を講師とした講演会を開催している。

①大島理森氏による講演会

令和６年６月１９日、弘前大学創立５０周年記念会館みちのくホールにおいて、元 衆議院議長 大島 理森 氏を講師とする講演会を開催した。

この講演会は、「未来のために、今やるべきこと」と題して、短期的な成果の顕在化や人材育成ではなく、多様な価値観、傾聴力、問題意識、突破力、人脈構築など、新たな知と行動を生み出す社会変革を担うことが出来る人材の素養を涵養し、今後の地域創生の取組を強化することを目的として開催された。大島氏からは、自身の政治経験に触れながら、落選した際に多くの学びがあったことなどが紹介され、学生らに向けて「無謀のように見える決断というのは２０代、３０代でないとできないため、恐れずに挑戦することが求められる」「世界でどのように貢献できるかを考え、新たな生きがいをつくれるような仕事をしてほしい」とエールが送られた。

講演会には、会場・オンライン合わせて２５０名が参加し、福田学長をはじめ、本学学生・職員が耳を傾けた。（URL）<https://chiiki.hirosaki-u.ac.jp/202406-12519/>



講演する大島理森氏



会場には多くの来場者

(7) 地方創生ネットワーク会議

弘前大学と包括連携協定を締結している青森県内の自治体や金融機関、経済団体等が連携して地方創生を推進することを目的として、「弘前大学地方創生ネットワーク会議」を開催し、連携機関間の地方創生に関する課題共有及び課題解決に向けての意見交換を実施している。

令和6年度は、対面形式とオンラインのハイブリッド形式により2回実施、年間延べ参加者数は233人に達した。いずれの回も、外部講師による講演や質疑応答を通じて、デジタル技術を手段とし、住民本位の共生社会の実現を目指す取組及び働きやすい職場づくりや自律分散型組織の重要性について活発な意見交換がなされた。

(URL) <https://chiiki.hirosaki-u.ac.jp/cooperation/cooperation03/>

令和6年度 地方創生ネットワーク会議（全2回）

実施日	内 容	参加者
11月14日	[テ ー マ] 脱デジタル宣言～旅する副町長による働き方を再デザインする 磐梯町の挑戦～（自治体DX推進≠デジタル化推進） [講 演] 「『脱デジタル宣言』～『旅する』副町長による働き方を再デザインする磐梯町の挑戦～」 [講 師] 福島県磐梯町「旅する」副町長・同町最高デジタル責任者 菅原 直敏   講演する菅原氏 質疑応答の様子	117人
2月19日	[テ ー マ] 事業承継×女性活躍×組織・リーダー論 [講 演] 「丁寧なしごとで感動を創造する」 [講 師] 株式会社ティ・ディ・シー 代表取締役社長 赤羽 優子   講演する赤羽氏 質疑応答の様子	116人

(8) 大学コンソーシアム学都ひろさき

弘前市内に設置されている6大学（弘前大学、弘前学院大学、弘前医療福祉大学、東北女子大学、東北女子短期大学、放送大学青森学習センター）が協力・連携して、高等教育機関が有する教育・学術研究機能の充実を図り、その成果を地域社会に還元することにより教育・文化の向上や地域振興に貢献し、併せて学園都市としての弘前市の更なる向上に寄与することを目的として、平成19年度に「学園都市ひろさき高等教育機関コンソーシアム」が設立された。



平成29年度に設立10周年を迎え、組織名称を「大学コンソーシアム学都ひろさき」に改称。また、令和3年度に東北女子大学と東北女子短期大学が統合し「柴田学園大学」となったことにより、現在の構成機関は5大学（弘前大学、弘前学院大学、弘前医療福祉大学、柴田学園大学、放送大学青森学習センター）となっている。

コンソーシアムにおける具体的な取組として、「3大学共通授業」「学生地域活動支援事業」「各大学公開講座等助成事業」等を実施している。

① 3大学共通授業

「地域の課題を理解し、地域の発展を考える」をテーマとして地域の課題を具体的に理解しその解決について自ら考えることができる人材を育成することを目的として、オムニバス形式で開講している。

本共通授業は平成25年度に開講し、令和6年度で12年目。平成28年度からは、弘前学院大学、柴田学園大学、弘前大学の3大学において単位として認定している。

令和6年度 共通授業 (会場：ヒロロ4階 市民文化交流館ホール(弘前市))

実施日	内 容	受講者
8月20日	テーマ：性の多様性と学校教育 [概要] 性に関わる現状と課題や学校教育での取組などを通じて、自身を含めた人々の性の多様性と豊かさに対して理解を深める。自分たちが暮らす弘前市の取組を踏まえ、これからの地域社会をどのように造り支えていくか、大学生として考える機会とする。 [担当教員] 弘前大学教育学部 教授 新谷 ますみ [ゲストスピーカー] 弘前市企画部企画課ひとづくり推進室 主幹 堤 緑 [協力教職員等] 弘前大学男女共同参画推進室 山下 梓	46人

実施日	内 容	受講者
	グループワークの様子 会場の様子	
8月21日	テーマ：地域イノベーションをデザインする 〔概要〕 地域イノベーションとは地域の人が主体となって地域資源を活用して開発した革新的なモノやサービスであり、学生が主体になりうる可能性を秘めた分野である。講義やグループワークを通し、青森県や弘前市といった地域に関する地域資源に目を向け、長所や短所を分析し実践しながらイノベーションを学ぶことで、地域について考えを深めてもらう機会とする。 〔担当教員〕 柴田学園大学フードマネジメント学科 特任教授 市田 淳治 〔ゲストスピーカー〕 弘前市商工部産業育成課 主事 楠 桃子 〔協力教職員等〕 柴田学園大学生生活創生学部 教授 兼平 拓道 発表の様子 グループワークの様子	45人
8月22日	テーマ：社会的つながりとウェルビーイング 〔概要〕 近年取り上げられることが増えているウェルビーイングについて、社会的つながりという観点から考える。この背景にあるのは、高度成長期以降に生じた、ウェルビーイングについての考え方の変化と社会的つながりの変化である。ウェルビーイングについての関心の高まりは近年のことであるが、同種の問題は、2000、2010年代頃から増加した幸福度研究、さらには1970年代に行われた社会指標研究においても議論されてきた。その背景にあるのは、経済成長による価値観の変化である。他方、社会的つながりについては、高度経済成長期以降に進行した個人化と、それに伴って地縁、血縁によるつながりが、弱体化してきた。このような社会的つながりを維持、促進することにも大きな意味があるが、本講義では、そうした自然発生的なつながりを捉えた社会的つながり（機能集団的なつながり、テーマ型コミュニティ的なつながり）の意義と形成について考えてい。 〔担当教員〕 弘前学院大学社会福祉学部 教授 藤岡 真之 〔ゲストスピーカー〕 弘前市市民生活部市民協働課 主幹兼係長 菊池 景子	45人

	 グループワークの様子	 学生による発表
--	---	---

②学生地域活動支援事業

学生が企画立案したまちづくり、地域づくりの活動に係る経費の一部を支援する公募型の事業。地域課題の解決や地域の活性化につながる学生の活動を支援し、学生による魅力あるまちづくりの推進を図ること、また、地域活動を通じて、学生が地域の一員としての社会的力量を形成することを目的として実施。

事業公募要項の概要

○応募できる団体

学生で構成される団体(ゼミ、研究室、課外活動団体等)で、次の要件の全てに該当するもの

- ・学生の活動を教員が実質的に指導していること
- ・構成員が概ね5人以上であること
- ・コンソーシアム構成大学の学生で組織された団体であること

○対象事業

弘前市の地域活性化や地域課題の解決を目的に実施する事業で、次の要件全てに該当するもの

- ・弘前市内で実施される事業であること
- ・弘前市民を対象にした事業であること

○補助金額

- ・単一の団体が事業を行う場合 : 上限 100,000円
- ・異なる大学の団体が連携して事業を行う場合: 上限 200,000円

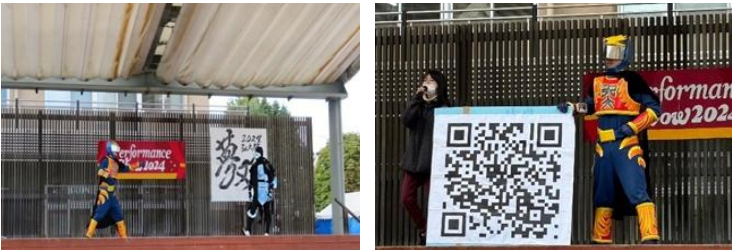
○事業審査及び審査基準

応募書類及び申請団体へのヒアリング等を実施し、次の10項目で審査し、決定する。

- ・適格性 ・効果性 ・適切性 ・自主性 ・実現性 ・公益性 ・地域性
- ・費用妥当性 ・将来性 ・独創性

令和6年度 学生地域活動支援事業 採択事業 (7件)

採択団体	事業名称/事業実施の様子
弘大囃子組 (弘前大学)	弘前の祭りの魅力に触れてもらおう！ 

採択団体	事業名称/事業実施の様子
僻地教育研究会 (弘前大学)	常盤野小中学校運動会のお手伝い 
弘前大学ストリートダンスサークルA. C. T. (弘前大学)	定期公演『STEPvol. 18』、駅前ねふた運行、定期公演『STEPvol. 19』 
ダイザープロダクション (弘前大学)	地域研究をテーマにしたヒーローショー 
地域活性化サークル (弘前学院大学)	大学キャンパスを使用した稔町町内会との合同イベントの開催 
弘前医療福祉大学救急救命研究会 (弘前医療福祉大学短期大学部)	防災救急教室 ～親子で楽しく防災・救急を学んで命のバトンを繋げよう～ 

採択団体	事業名称/事業実施の様子
waku waku club (弘前医療福祉大学)	小比内健康いきいきプロジェクト～つなげよう！健康リレー～ 

③各大学公開講座等助成事業

各大学の特色を活かしながら、蓄積する知を広く弘前市民に発信・還元して、本コンソーシアム及び大学を身近な存在として感じてもらうことを目的として、構成機関が行う公開講座等事業の実施を助成している。

令和6年度 各大学公開講座等助成事業（4件）

実施日	実施大学	会 場	公開講座名	受講者
11月2日	放送大学	放送大学青森学習センター講義室	放送大学青森学習センター公開講演会 「青森県の伝統工芸品～全国の工芸品と比較して～」	24人
11月30日	柴田学園大学短期大学部	柴田学園大学短期大学部 地域文化センター	特別公開講座 「～作って食べる日本のアート～練り切り作り」	31人
8月3日 12月7日	柴田学園大学	柴田学園調理学実習室・学生ホール	特別公開講座 「絵本のごちそうクッキング～親子時間を楽しもう～」	29人 30人
2月22日	弘前医療福祉大学短期大学部	土手町コミュニケーションプラザ	青森県産食材を使った卒業料理作品展	102人

④学生団体シンポジウム

弘前市民に対して、学生の活動を広く公開すること、また、大学の枠を超えた学生同士の交流の場をつくり、学生生活の更なる活性化を図ることを目的として、例年、学生団体シンポジウムを開催している。

令和6年度は、令和7年2月23日に土手町コミュニティパーク多目的ホール（弘前市）で開催し、会場には約30人の市民、学生、関係者が参加、LIVE配信では約130名が聴講した。



⑤ひろさき移動キャンパス

「大学コンソーシアム学都ひろさき」の魅力を県外にアピールして、弘前で学びたいという学生の増加、他地域のコンソーシアムとの交流を深めて本コンソーシアムの充実を図ることを目的として、北海道函館市のキャンパス・コンソーシアム函館が主催する「HAKODATEアカデミックリンク（令和6年11月10日開催）」に、本コンソーシアム学生委員会「いしてまい」がブース展示を行い、「飲食店企画」「衣類回収ボックス設置」「伝統文化企画」など、地域で取り組んでいる活動を紹介した。



3. 地域創生人材育成部門事業

（1）弘前大学地域創生本部連携推進員

青森県内自治体等との連携体制をより一層強化するとともに、地域の人材育成に寄与することを目的として、弘前大学と包括連携協定を締結している機関の職員を「連携推進員」として受け入れている。

連携推進員は、本学の地域連携に関する業務に関わりながら、大学教員との関係を深め、具体的な地域課題解決等の事案を通じて、地域社会との連携を活性化させることを目的として活動する。



令和6年度連携推進員受入式

(URL) <https://chiiki.hirosaki-u.ac.jp/training/training04/>

①令和6年度連携推進員名簿（21機関21人）

所属機関・部署		氏 名
鯉ヶ沢町	総務課	岩谷 真季
弘前市	健康こども部こども家庭課	小友 瑞穂
(株)青森銀行	ビジネスパートナー部ビジネスパートナー課	木村 太亮
西目屋村	建設課	檜山 一麻
弘前商工会議所	地域・産業振興課	高橋 優
深浦町	総合戦略課	間山 聖也
藤崎町	総務課	岸 咲斗
平川市	税務課	工藤 綾子
板柳町	商工観光課	松山 亜由武
青い森信用金庫	弘前駅前支店	番場 信
青森県信用組合	総務部	三上 果歩
(株)商工組合中央金庫	青森支店営業課	岡崎 亮平
青森県信用保証協会	企業支援部創業・経営支援課	須藤 淑海

所属機関・部署		氏 名
農林中央金庫	青森支店担い手金融班	三上 賛
黒石市	農林部農林課	工藤 幸太郎
中泊町	総合戦略課	佐藤 伸之介
七戸町	企画調整課	附田 浩基
八戸市	総合政策部政策推進課	工藤 慎也
今別町	総務企画課	相内 峻
大鰐町	企画観光課	工藤 雄輝
鶴田町	企画交流課	藤井 秀彰

②令和6年度連携推進員定例ミーティングの実施状況

実施日	内 容
4月19日	○令和6年度受入式（連携推進員へ受入通知書の交付） ○第1回定例ミーティング ・講義及びワーク：連携推進員制度の概要、今年度の進め方、自己紹介（これまで・現在の仕事内容・関心等） ・講師：弘前大学地域創生本部 准教授 館 栄
5月17日	○第2回定例ミーティング ・講義及びワーク：大学地域連携の概要、自治体の連携実践事例等の紹介 ・講師：弘前大学地域創生本部 准教授 館 栄
6月21日	○第3回定例ミーティング ・講義：ワークショップとファシリテーションの基本を学ぶ① - ワーク：ワークショップ手法の体験&ファシリテーター実演 ・講師：弘前大学大学院地域社会研究科 准教授 土井 良浩
7月19日	○第4回定例ミーティング ・講義：ワークショップとファシリテーションの基本を学ぶ② - ワーク：ファシリテーショングラフィックをやってみよう ・講師：弘前大学大学院地域社会研究科 准教授 土井 良浩
8月23日	○第5回定例ミーティング ・講義：「若者の地元定着」について考える ～人口減少社会の中での高校生・大学生の動向～ ・講師：弘前大学人文社会科学部 教授 李 永俊
9月20日	○第6回定例ミーティング ・講義：政策立案は、固定観念の打破から！ ～点と点をつなぎ、新しいアイデアを生み出そう～ ・講師：弘前大学教育学部 准教授 蒔田 純
10月11日	○第7回定例ミーティング（学外実地研修） ・学外実地研修（詳細は下記を参照）
11月15日	○第8回定例ミーティング（学外実地研修） ・学外実地研修（詳細は下記を参照）
12月20日	○第9回定例ミーティング ・講義及びワーク：DXって何？デジタルで変わる私たちの未来 ・講師：弘前大学大学院理工学研究科 教授 今井 雅
(R7) 1月24日	○第10回定例ミーティング ・講義：（実験＋観察）×確信＝発見 ・講師：弘前大学大学院理工学研究科 教授 鳥飼 宏之

実施日	内 容
2月26日	○第11回定例ミーティング ・ワーク：学外研修を深掘りする！ ・講師：弘前大学地域創生本部 准教授 館 栄
3月19日	○第12回定例ミーティング ・クロージング：一年を振り返って～気づきと今後～ ・講師：弘前大学地域創生本部 准教授 館 栄
4月15日	○令和6年度成果報告会 ・活動成果報告 ・各機関個別の連携の成果報告

③令和6年度連携推進員学外実地研修

i) 学外実地研修（1回目）：鶴田町

令和6年10月11日、連携推進員第7回定例ミーティングは「学外実地研修」として「『鶴の舞橋』への誘客促進策を考える」のテーマのもと、鶴田町を訪問した。

はじめに、参加者全員で、日本一長い三連太鼓橋である「鶴の舞橋」（全長300m）を見学した。当時は、第2期工事中（令和7年3月31日まで）であったため、橋を渡ることはできなかったが、鶴田町から派遣されている 藤井 秀彰 連携推進員から、工事期間中に実施している取組等について説明を受けた。



「鶴の舞橋」見学の様子

後半は、会場を鶴田町役場に移して、グループワーク（ポストイット・トーク：KJ法）を実施した。最初に、グループごとに、現地を実際に見て感じたことや、気になったこと、さらには、改善したい点などについて、それぞれ付箋紙に書き出し、共有した。次に、工事期間中の誘客促進策について、様々な視点からアイデアを出し合い、最後に発表した。



グループワークの様子

今回の定例ミーティングは、連携推進員の所属機関が直面している課題について、外部の者が実際にその現場を見て、対策を考える貴重な機会となった。

ii) 学外実地研修（2回目）：岩手県矢巾町

令和6年11月15日、連携推進員第8回定例ミーティングは前回に引き続き「学外実地研修」を実施した。今回は岩手県矢巾町を訪問し、「フューチャーデザインを学んで、体験し、活用につなげる」をテーマとして実施した。

はじめに、矢巾町の吉岡 律司 政策推進監・未来戦略課長から「住民主体のまちづくりを目指して『知らせる』から『参加』そして『合意形成』へ」と題して、吉岡課長ご自身が、水道事業を通じて、住民主体のまちづくりに取り組んできたことや、クローズアップ現代への出演がきっかけとなった「フューチャーデザイン」という手法についてご説明いただいた。



吉岡課長による説明の様子



ワークショップの様子

後半は、吉岡課長がファシリテーター役を担い、連携推進員が「時空移動法被」を着用して「未来人」となり、少子化をテーマとしたフューチャーデザイン・ワークショップを体験した。岩手県立大学客員准教授でもある吉岡課長の卓越した話術もあり、終始和やかに、楽しく学ぶことができた。

④ 本学授業への参画

連携推進員が、令和6年6月24日及び7月29日に、「地域共創演習」（大学院地域共創科学研究科）の地域課題解決プレゼンテーションに出席し、大学院生と発表内容について意見交換を行った。

⑤ 令和6年度連携推進員成果報告会

令和7年4月15日、弘前大学創立50周年記念会館岩木ホールにおいて、令和6年度連携推進員成果報告会を開催した。成果報告会には、弘前大学教職員、自治体・金融機関職員など約50名が参加した。

報告会では6名の連携推進員から、連携推進員制度の概要や定例ミーティングの実施内容、大学授業への参画などについて発表を行った。



連携推進員による発表の様子

発表内容	発表者
・弘前大学「連携推進員制度」の概要 ・定例ミーティング 年間実績について	小友 瑞穂（弘前市）
・学外研修（鶴田町）について	藤井 秀彰（鶴田町）
・学外研修（岩手県矢巾町）について	番場 信（青い森信用金庫）
・大学授業への参画について	三上 賛（農林中央金庫）
・地方創生ネットワーク会議への出席について	佐藤 伸之介（中泊町） 岡崎 亮平（商工組合中央金庫）

（2）弘大じょっぱり起業家塾

地域活性化に向けた人材育成の取組の一環として、学生や研究者、一般市民等を対象に、起業家による講演や事業計画の策定・演習等を通じて、柔軟な発想力や高い企画提案力を身につけることを狙いとした教育プログラム「弘大じょっぱり起業家塾」を開講している。

令和6年度は「青森を変えたい」「青森を良くしたい」という思いを持ち、起業や起業家マインドを持って行動したいと考えている人を対象とし、各々のビジネスプランを掲げる38人が受講した（基礎コース4回、実践コース5回の計9回）。このうち、修了要件を満たした14人を地域で活

躍できる起業家マインドを持つ「じょっぱり起業家」として認定した。このうちの1人は既に起業している。

<https://chiiki.hirosaki-u.ac.jp/training/training02/>

①プログラム内容

i) 基礎コース 地域ビジネス論（座学）＋先進事例研究（e-learning）

実施日	講義内容等	講 師
6月20日	開講式 基調講演「失敗から学んだ若者の起業～昆虫飼育事業による社会課題の解決～」	講師：(株)TOMUSHI 代表取締役CEO 石田 陽佑
7月18日	第1回講義 ・起業のための基礎 ・ディスカッション	講師：(株)日本政策金融公庫弘前支店 融資課長 山崎 雄
8月22日	第2回講義 ・起業アイデアを事業計画に変換する ・ディスカッション	講師：AOMORI STARTUP SENTER 創業コーディネーター 植松 宏真
9月5日	第3回講義 ・地域課題を解決するスタートアップの創出 ・ディスカッション	講師：JR東日本スタートアップ(株) 代表取締役社長 柴田 裕
9月19日	第4回講義 ・地域の魅力を世界に発信～DXを活用した起業～ ・ディスカッション	講師：(株)スプラウトジャパン 代表取締役 山内 和彦



令和6年度開講式



受講の様子



受講の様子

ii) 実践コース ビジネスプラン作成演習

実施日	講義内容等	講 師
10月3日	実践コース イン트로ダクション 起業事例：野辺地町の魅力を全国へ～ホタッピー商店の創業～	講師：のへじ町ホタッピー商店 代表 横井 さくら
10月17日	第1回演習 市場ポジションの確認	講師：弘前大学大学院地域共創科学研究科 教授 石塚 哉史
10月31日	第2回演習 アイデアの創出とコンセプトづくり	講師：弘前大学大学院地域共創科学研究科 教授 森 樹男

実施日	講義内容等	講 師
11月7日	第3回演習 ターゲット顧客の設定	講師：弘前大学大学院地域共創科学研究科 教授 石塚 哉史
11月21日	第4回演習 事業計画のブラッシュアップ	(株)日本政策金融公庫
12月12日	成果発表会 修了式	

②成果発表会の開催

令和6年12月12日、弘前大学創立50周年記念会館において、弘大じょっぱり起業家塾2024の成果発表会を開催した。

令和6年6月から12月にわたり基礎・実践コースを履修し、各々のビジネスプランを練り上げてきた受講生のうち事前審査を通過した5組が、これまで学習してきた成果をもとに作成したビジネスプランを発表した。審査は「理念・意義・目標」「優位性」「実現可能性」「市場性・収益性」の4つの観点から行われ、受講生は限られた時間のなかで、ブラッシュアップを重ねた自らのビジネスプランを熱心にアピール、審査員からはプランの実現に向けた多くの意見やアドバイスが相次いだ。

審査の結果、認知症患者を持つ家族の精神的負担を軽減する認知症デバイスを提案した弘前大学医学部医学科4年の峯田陽さんのビジネスプラン「壁掛け認知症デバイス」が優秀賞を受賞した。また、弘前市の伝統工芸津軽竹かごの販売事業計画を提案した岩木地区地域おこし協力隊の伊谷翼さんが特別賞を受賞した。



4. ボランティアセンター事業

東日本大震災によって甚大な被害を受けた地域へのボランティア活動を円滑に展開するために設立された「弘前大学人文学部ボランティアセンター」を発展的に改組し、ボランティア活動の推進及び支援を図るため、平成24年10月、全学組織として「弘前大学ボランティアセンター」が設置された。その後、令和2年4月の組織再編により弘前大学地域創生本部に統合され、現在は「弘前大学地域創生本部ボランティアセンター」として、学生が主体となり、各種ボランティア活動を実施している。

主な活動として、災害復興支援、学習支援、除雪、サイバー防犯など、多様な地域課題解決に資する取組を行っているほか、地域からの要請により学生ボランティアの派遣や、市民向けの講座・報告会なども実施している。

(弘前大学地域創生本部ボランティアセンターURL) <https://huvc.net/>



(1) ボランティア登録者数、ボランティア活動参加者数

①ボランティア登録者数

所属学部等	登録者数（人）							
	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	その他	計
人文社会科学部	11	12	45	50	-	-	-	118
教育学部	13	28	38	35	-	-	-	114
医学部医学科	18	20	4	26	5	2	-	75
医学部保健学科	19	6	63	23	-	-	-	111
医学部心理支援学科	0	1	1	1	-	-	-	3
理工学部	11	17	30	32	-	-	-	90
農学生命科学部	7	15	19	17	-	-	-	58
その他（大学院生等）	-	-	-	-	-	-	21	21
計	79	99	200	184	5	2	21	590

②ボランティア活動参加者数

区 分	活動回数	ボランティア参加者数（人）						
		教職員	学生	一般	小計	講師等	児童	合計
学外からの周知要請	3回	-	4	-	4	1	-	5
学外からの派遣要請	65回	6	159	87	252	161	296	709
野田村支援交流活動	2回	3	18	21	42	2	-	44
学習支援活動	52回	29	280	19	328	65	329	722
オンライン学習支援	47回	50	127	4	181	44	242	467
募金活動	2回	6	9	-	15	-	-	15
除雪ボランティア	2回	6	19	-	25	2	-	27
その他（講座・報告会など）	5回	22	21	16	59	17	84	160
計	178回	122	637	147	906	292	951	2,149

(2) ボランティアセンターの活動

①野田村支援交流活動

東日本大震災によって甚大な被害を受けた岩手県九戸郡野田村へ、震災直後から支援活動を開始したことを機として、現在も継続して支援交流活動を行っており、野田村での夏祭り運営補助や東日本大震災追悼行事に、本学の教員・学生が参加している。

i) 野田村夏祭り

令和6年7月28日、野田村新町地区コミュニティセンターで開催された「新町地区夏祭り」に、弘前市民14名、本学学生13名、本学教員1名の計28名が参加し、縁日コーナーや棒パンづくり、盆踊り大会の運営補助を行ったほか、本学からジャズ研究会が参加し演奏の披露も行った。



棒パンづくりの様子

当日は、野田村のたくさん子ども達や親子連れの方々が訪れ、盛り上がりを見せた。

ii) 東日本大震災追悼行事

令和7年3月11日、野田村で開催された「野田村3.11ミーティング」及び「東日本大震災追悼行事」に、弘前市民7名、本学学生5名、本学教員2名の計14名が参加した。

はじめに、野田村保健センター内復興展示室で「野田村3.11ミーティング」が行われ、これまでの野田村復興の経過を振り返るとともに、発災から1年経過した能登半島地震の災害支援活動の情報共有を行い、今後の活動の展開について考えた。

ミーティング後、野田村ほたてんぼうだいに設置された大津波記念碑の前で行われた東日本大震災追悼行事に参列した。会場では、地震発生時刻の14時46分にサイレンが鳴り、参加者による黙とうが行われた。



東日本大震災追悼行事の様子



基調講演中の高橋氏

②市民ボランティア講座・活動報告会

弘前市民や弘前大学の学生・教職員を対象として、様々なテーマによるボランティア講座を年に数回開催している。また、毎年冬にはボランティアセンターの活動を振り返り、市民の方々と来年度の活動や今後必要となる活動、地域課題について意見交換を行う活動報告会を開催している。

i) 第1回市民ボランティア講座

令和6年10月9日、弘前大学人文社会科学部多目的ホールにおいて、「子ども食堂から『こどもまんなか』社会を考える」をテーマとして開催し、子ども食堂の運営者や行政関係者、高校生、大学生など計29名が参加した。

前半は、NPO法人Matsudo子どもの未来へwith us 代表理事 高橋 亮氏が基調講演を行った。高橋氏は講演の中で、こがねはら子ども食堂の設立から、学習支援、フードトラック、体験プログラム、10代の居場所事業など、様々な支動へと広がっていった経緯とその意義について述べた。

後半は、講師の高橋氏、NPO法人Matsudo子どもの未来へwith us 理事の有馬 房江 氏、コーディネーターの李ボランティアセンター長が参加し、会場からの質問に答える座談会を行った。参加者からは、子ども食堂や学習支援を継続するモチベーションについてなど様々な質問が寄せられた。講師陣は子どもたちとの関わりの中で得たやりがいや活動の意義について熱く語るなど、参加者全員が、子どもの居場所づくりへの意識を新たにすることができた。

ii) 第2回市民ボランティア講座

令和6年11月24日、弘前大学学生会館大集会室において、「避難所運営訓練in弘前大学」を開催し、弘前市民・学生など計38名が参加した。

本講座は「『誰一人取り残さない地域防災』未来の担い手育成」をテーマに3部構成で行われ、第1部のオリエンテーションでは、(一社)男女共同参画地域みらいねっと 小山内 世喜子 代表理事から、男女共同参画の視点から避難所を運営することの大切さについて説明があった。第2部の班別訓練では、実際に避難所づくりに使われるテントや段ボールベッド等の組み立て、避難所運営のためのスペースづくりを体験した。第3部では、設営された各スペースの見学を行い、本講座を通して気づいたことや感じたこと・学びをどう生かすかについて、参加者間で共有した。参加者からは、「情報と配慮が心を救う」「コミュニケーションを取りながら運営することが大事」等、熱意のこもった感想が聞かれた。



乳幼児世帯用スペース作成の様子

iii) 弘前大学地域創生本部ボランティアセンター活動報告会

令和7年1月23日、弘前大学地域創生本部ボランティアセンター活動報告会を弘前大学学生会館大集会室及びオンライン配信のハイブリッド形式により開催し、弘前市民・学生など計25名が参加した。

前半は、福知山公立大学地域経営学部准教授 大門 大朗 氏から、令和6年1月に発生した能登半島地震での発災後からの課題の変化や現在の被災地支援活動について講演があった。後半は、当センターの学生ボランティアである教育学研究科2年 藤田 桃さん、理工学部3年 羽原 拓哉さん、人文社会科学部1年 清水 遥仁さんから今年度の活動報告があり、野田村支援交流活動や学習支援事業について学生自身が感じたことなどが述べられた後、李ボランティアセンター長と大門氏、学生3名で意見交換が行われた。



意見交換の様子

③学習支援活動（あっぷる〜む）

生活困窮世帯の中学生・高校生を対象として、弘前大学学生会館及び弘前市内会場において、毎週水曜日（16:45～19:00）に対面式で学習支援を実施した。各回5名程度の中学生を対象に、弘前大学地域創生本部ボランティアセンターの学生5～10名が学習支援を行った。

④オンライン学習支援（Zoomおんらin）

大学生と一緒に勉強がしてみたい小・中学生を主な対象として、Zoomを用いてオンライン上で一緒に勉強を行う「Zoomおんらin」を毎週水曜日（16:30～19:00）に実施した。各回、5名程度の小・中学生を対象に、弘前大学地域創生本部ボランティアセンターの学生2～3名が学習支援を行った。



⑤青森県警察サイバー防犯ボランティア

令和6年7月9日、弘前大学創立50周年記念会館において、「弘前大学学生に対する青森県警察サイバー防犯ボランティア委嘱状交付式」が執り行われた。

委嘱を受けた11名の学生は、任期である令和7年3月31日までの間、イベント内での青森県警察によるスマートフォン安全教室の運営補助やネット上の有害情報の通報などを通じて、インターネットやSNS、スマホアプリなどの危険性や被害にあった際の対処法などの広報活動やサイバー空間の安全を守るための取組を行った。



出席者集合写真

⑥除雪ボランティア

平成24年度から弘前市内の歩道、通学路等の除雪ボランティア活動を行っている。

令和6年度は、令和7年1月26日（日）・2月2日（日）の計2日、のべ20名の本学学生と6名の教員が参加し、弘前大学近隣地域の歩道や通学路等の除雪を行った。弘前市では観測史上最大の積雪量を観測するなど例年にない大雪となり、除雪実施箇所においても雪が積み重なっており歩行が困難な状況であったが、参加者それぞれが熱心に活動に取り組み、終了時には歩道を確保することができた。



除雪中の様子

⑦令和6年台湾東部沖地震災害支援募金活動

- ▼募金期間 令和6年5月13日～7月31日
- ▼募金総額 30,032円
- ▼募金先 認定NPO法人ピースウィンズ・ジャパン

Ⅲ. サテライト

1. 八戸サテライト

八戸地域において、本学の分室としての機能を果たし、本学と地域社会との密接な連携を図ることを目的として、平成14年6月、八戸地域地場産業振興センター4階に「弘前大学八戸サテライト」を設置した。平成19年11月には、八戸市庁舎に隣接する八戸商工会館1階に移転している。八戸サテライトには地域連携コーディネーター2人、事務補佐員1人が常駐し、広報活動（入試情報等）や産学官連携に関する相談、公開講座等の開催など、地域における弘前大学の窓口機能を担っている。



【概要】

住 所：八戸市堀端町2の3 八戸商工会館1階

電話番号：0178-43-1600

E-mail：hachisate@hirosaki-u.ac.jp

URL：<https://chiiki.hirosaki-u.ac.jp/about/satellite/hachinohe/>



2. 青森サテライト

青森地域において、本学の分室としての機能を果たし、本学と地域社会との密接な連携を図ることを目的として、令和4年10月、青森市柳川庁舎1階に「弘前大学青森サテライト」を設置した。青森サテライトには地域連携コーディネーター1人が常駐し、広報活動（入試情報等）や産学官連携に関する相談など、地域における弘前大学の窓口機能を担っている。



【概要】

住 所：青森市柳川2-1-1 青森市柳川庁舎1階

電話番号：017-766-3500

E-mail：aosate@hirosaki-u.ac.jp

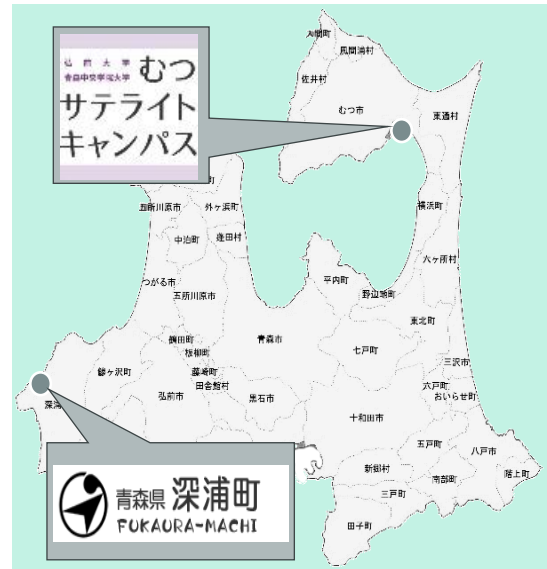
URL：<https://chiiki.hirosaki-u.ac.jp/about/satellite/aomori/>



3. サテライトキャンパス

県内自治体との連携協定に基づき、自治体が事務局を担い、地域の活性化に資する事業を展開することを目的として、まち全体をキャンパスと見立てた大学固有の施設を有しないバーチャル型のサテライトキャンパスを設置している。むつ市には青森中央学院大学と共同で「むつサテライトキャンパス」を平成27年3月に開設、深浦町には「深浦エコサテライトキャンパス」を平成28年5月に開設している。

各サテライトキャンパスにおいて、公開講座を実施するとともに、「滞在型学習支援事業」として地域に滞在して現地住民と交流を図りつつ、地域の発展に取り組む教員・学生の活動費を支援している。



(URL) <https://chiiki.hirosaki-u.ac.jp/about/satellite/mutsu-fukaura/>

(1) むつサテライトキャンパスにおける事業

① むつサテライトキャンパス公開講座

8月9日	【食育健康講座】夏野菜の代表ゴーヤとズッキーニで暑い夏を乗り切ろう 会場：むつ来さまい館（むつ市） 講師：弘前大学農学生命科学部 准教授 前多 隼人 料理研究家 坂本 謙二	20人
7月28日 ※荒天により中止	【ジオパーク講座】川内川溪谷自然観察会 会場：川内川溪谷（むつ市） 講師：農学生命科学部 教授 中村 剛之	—
8月23日	【食育健康講座】青森県のカシス生産量はわが国で一番です！ 強力な抗酸化作用で美容と健康を維持しましょう！ 会場：下北文化会館（むつ市） 講師：弘前大学名誉教授 加藤 陽治 料理研究家 坂本 謙二	24人
9月22日	【ジオパーク講座】ブラタモリのロケ地を巡る 会場：下北半島 講師：弘前大学大学院理工学研究科 講師 根本 直樹	16人
9月27日	【食育健康講座】酸化ストレスと血圧に対するナスの機能成分の効果！ 会場：海老川コミュニティセンター（むつ市） 講師：弘前大学農学生命科学部 准教授 前多 隼人 料理研究家 坂本 謙二	14人
10月18日	【食育健康講座】豊富なβカロテン、ビタミンEで老化防止を！ 粘膜や皮膚を強化して厳しい冬に備えよう！ 会場：下北文化会館（むつ市） 講師：弘前大学名誉教授 加藤 陽治 料理研究家 坂本 謙二	15人

②滞在型学習支援事業の対象となった取組

本事業は、「むつサテライトキャンパス」において、恵まれた自然や魅力ある歴史・文化について、滞在して地域と交流しながら学び、また、地域課題へ対応し、地域社会の発展に取り組む本学教職員・学生に対し、現地における活動が円滑に行われるようサテライトキャンパスの利用及び学術活動を一体的に支援することを目的として、実施経費及び滞在時費用（宿泊費）の一部を助成するもの。

令和6年度は、6件の滞在型学習の実施経費及び延べ170人の宿泊費を助成した。

実施日	内 容	参加者
6月7日 ～6月8日	取 組 名：下北観光の振興に関するフィールドワーク 担当教員：弘前大学人文社会科学部 教授 黄 孝春	教員 1人 学生 6人
9月12日 ～9月14日	取 組 名：教育科学演習 フィールドワーク in むつ市2024 担当教員：弘前大学教育学部 准教授 越村 康英	教員 6人 学生 20人
9月25日 ～9月26日	取 組 名：小学校児童を対象とした理科教育増進活動 担当教員：弘前大学教育学部 教授 長南 幸安	教員 3人 学生 5人
9月25日 ～9月26日	取 組 名：子どもの居場所「まるっと」での学習支援事業 担当教員：弘前大学地域創生本部ボランティアセンター長 李 永俊	教員 1人 学生 3人
9月26日 ～9月28日	取 組 名：下北半島（下北ジオパーク）を対象とした野外実習 担当教員：弘前大学理工学研究科 教授 折橋 裕二	教員 4人 学生 21人
10月26日 ～10月27日	取 組 名：むつ下北未来創生キャンパス祭 担当教員：弘前大学理事（社会連携担当） 橋本 恭男	教員 3人 学生 58人

※ 滞在型学習支援事業（むつ市）による補助

- ・実施経費に対する補助 上限30,000円/件
- ・宿泊費に対する補助 3,000円/泊・人
- ・自治体所有の公用バス等による送迎及び現地での移動支援

③むつ下北未来創生キャンパス祭

むつ市内にキャンパスを有する青森明の星短期大学及び青森大学と、特定の建物を持たずにむつ下北地域の全フィールドをむつサテライトキャンパスとして展開する弘前大学及び青森中央学院大学が、むつ下北地域の若者による賑わい創出を目的に、むつ市と共同で、令和6年10月27日、下北文化会館（むつ市）において「第3回むつ下北未来創生キャンパス祭」を開催した。

当日は、弘前大学の「ストリートダンスサークルA.C.T」から42人、「人文社会科学部地域行動コース」から15人、「ダイザープロダクション」から1人、他の3大学からも約70人が参加し、総勢約120人の学生がステージパフォーマンスや展示・体験ブースにより、むつ下北地域の住民と交流し、延べ約3,500人が来場し、賑わいが創出された。



ステージ発表



パネル展示発表

(2) 深浦エコサテライトキャンパスにおける事業

① 滞在型学習支援事業の対象となった取組

本事業は、「深浦エコサテライトキャンパス」において、恵まれた自然や魅力ある歴史・文化について、滞在して地域と交流しながら学び、また、地域課題へ対応し、地域社会の発展に取り組む本学教職員・学生に対し、現地における活動が円滑に行われるようサテライトキャンパスの利用及び学術活動を一体的に支援することを目的として、実施経費及び滞在時費用（宿泊費）の一部を助成するもの。

令和6年度は、2件の滞在型学習の実施経費及び延べ62人の宿泊費を助成した。

実施日	内 容	参加者
6月27日・ 11月21日 ～11月23日	取組名：空き家分布状況と集落史との関連についてのフィールドワーク 担当教員：弘前大学人文社会科学部 助教 松井 歩	教員 2人 学生 27人
10月14日 ～10月15日	取組名：「楽しく運動能力up! ふかうらスポーツ教室」 担当教員：弘前大学教育学部 教授 上野 秀人	教員 1人 学生 3人

※ 滞在型学習支援事業（深浦町）による補助

- ・実施経費に対する補助 上限30,000円/件
- ・宿泊費に対する補助 2,500円/泊・人
- ・自治体所有の公用バス等による送迎及び現地での移動支援

IV. 各学部・研究科等における公開講座等の実施状況

1. 実施件数・参加人数

令和6年度

実施部局等	実施件数	延べ参加人数
(1) 人文社会科学部	10 件	471 人
(2) 教育学部	19 件	1, 228 人
(3) 農学生命科学部	3 件	150 人
(4) 大学院医学研究科	2 件	74 人
(5) 大学院保健学研究科	6 件	825 人
(6) 大学院理工学研究科	15 件	952 人
(7) 大学院地域社会研究科	2 件	441 人
(8) 大学院地域共創科学研究科	2 件	117 人
(9) 医学部附属病院	18 件	1, 297 人
(10) 被ばく医療総合研究所	5 件	1, 254 人
(11) 地域戦略研究所	1 件	13 人
(12) 国際連携本部	1 件	20 人
(13) 地域創生本部	8 件	412 人
(14) 教育推進機構	7 件	268 人
(15) 研究・イノベーション推進機構	5 件	313 人
(16) 健康未来イノベーション研究機構	2 件	5, 200 人
(17) 男女共同参画推進室	1 件	60 人
(18) 大学コンソーシアム学都ひろさき	1 件	138 人
計	108 件	13, 233 人

2. 公開講座等一覧

(1) 人文社会科学部

地域未来創生塾@中央公民館

開催日	①令和6年10月2日 ②令和6年10月16日 ③令和6年10月30日 ④令和6年10月30日 ⑤令和6年11月27日
主催・共催	【主催】弘前大学人文社会科学部地域未来創生センター 【共催】弘前市教育委員会（中央公民館） 【後援】弘前市、東奥日報社、陸奥新報社
会場・対象 参加人数	【会場】弘前文化センター第6会議室、多目的研修室、オンライン 【対象】弘前大学生、教職員、弘前市および近隣にお住まいの市民一般、高校生 【参加人数】67人
講 師	①弘前大学人文社会科学部 教授 李 永俊 ②弘前大学人文社会科学部 准教授 古村 健太郎 ③弘前大学人文社会科学部 准教授 内藤 周子 ④弘前大学人文社会科学部 助教 劉 育 ⑤弘前大学人文社会科学部 准教授 澤 真一
内 容	本事業は、「持続的で豊かな地域創造」をテーマに全5回の講座を開催した。 具体的には、人口減少にともなう様々な地域課題の対策や地域文化資源の有効利用策を模 索するために、弘前大学人文社会科学部の教員が、ワークショップ形式で学びを深めた。

国際公開講座2024「〈現在〉を考えるための人文学」

開催日	令和6年11月3日
主催・共催	【主催】弘前大学人文社会科学部 【共催】弘前大学人文社会科学部地域未来創生センター
会場・対象 参加人数	【会場】弘前大学創立50周年記念会館岩木ホール 【対象】弘前大学生、教職員、市民一般、学生 【参加人数】30人
講 師	①弘前大学人文社会科学部 助教 古川 祐貴 ②弘前大学人文社会科学部 准教授 亀谷 学 ③弘前大学人文社会科学部 教授 原 克昭
内 容	人文学の「今」—日本や世界の文化・歴史に関する最新の研究成果—をわかりやすく伝 えた。弘前大学の3名の教員が、日本と世界に生きる人々の多様な営みについて、最新の 研究成果に基づき、地域の皆さんに分かりやすく紹介した。

青森家庭少年問題研究会 2024年度 第1回学習会

「研究会の20年のあゆみと子どもを巡る課題」

開催日	令和6年7月20日
主催・共催	【主催】青森家庭少年問題研究会 【共催】弘前大学人文社会科学部地域未来創生センター
会場・対象 参加人数	【会場】弘前大学人文社会科学部棟4階多目的ホール 【対象】弘前大学生、教職員、市民一般、学生 【参加人数】20人

講 師	①関東学院大学 法学部 村田 輝夫 ②弘前大学 名誉教授 宮崎 秀一 ③青森明の星短期大学 最上 和幸
内 容	青森家庭少年問題研究会は設立から20年を迎え、この機会に20年間の子どもの問題を巡る問題を振り返り、来場者のみなさんと今後の課題について考えた。

東北6県合同研究フォーラム「撮ること・残すこと・活かすこと—民俗と映像記録—」

開催日	令和6年11月16日
主催・共催	【主催】青森県民俗の会、弘前大学人文社会科学部地域未来創生センター 【後援】青森県教育委員会、弘前市教育委員会、東奥日報、陸奥新報
会場・対象 参加人数	【会場】弘前大学人文社会科学部棟4階多目的ホール 【対象】弘前大学生、教職員、東北6県の民俗学関係者、行政関係者、市民一般、学生 【参加人数】60人
講 師	青森県民俗の会 代表 古川 実 青森県民俗の会 山田 巖子 青森県民俗の会 葉山 茂 青森県民俗の会 村中 健大 東北民俗の会 今井 雅之 福島県民俗学会 豊田 暁 山形県民俗研究協議会 阿部 宇洋 秋田県民俗学会 小田島 清朗 青森県民俗の会 下田 雄次 岩手民俗の会 阿部 武司 弘前大学地域未来創生センター 副センター長 原 克昭
内 容	ホームビデオからスマホへと、映像を撮影する機器が変わることで記録できる範囲が広がるとともに、撮る側と撮られる側の関係性も変わり、新たな撮影倫理の問題も浮上している。最新機器の利便性をどのように活かし、また過去の映像をどのように活用するのか、東北6県の民俗学研究会の関係者が集まり、現在の実践と今後の可能性について話し合った。

公開シンポジウム 地域へのめざめ「弘前×フランス」で育む複言語・複文化

開催日	令和6年11月22日
主催・共催	【主催】科研 20K03090シンポジウム開催実行委員会 【後援】弘前大学人文社会科学部地域未来創生センター
会場・対象 参加人数	【会場】弘前市民文化交流館ホール（ヒロロ4階） 【対象】弘前大学生、教職員、市民一般、学生など関心のある方 【参加人数】30人
講 師	コーディネーター：近畿大学 法学部 高橋 梓（弘前大学人文学部OB） 登壇者：熊野 真規子 國枝 孝弘 松井 真之介 安藤 博文 MOUTON Ghislain

内 容	科学研究費助成事業 20K03090「《地域への目覚め》を介した日本型複言語・複文化教育モデルと複文化教育交流実験検証」（研究代表：熊野真規子）の一環として開催した。 本研究課題を含むプロジェクトの10年を振り返り、これからの「学び」の可能性を探った。交流実験参加経験のある学生(弘前大学、慶應義塾大学、近畿大学、神戸大)・OBも会場参加した。
-----	--

2024年度地域未来センターフォーラム

「ライフドキュメントの継承へ」-国立療養所の歴史化に際して

開催日	令和6年11月9日
主催・共催	【主催】弘前大学人文社会科学部地域未来創生センター
会場・対象 参加人数	【会場】弘前大学人文社会科学部棟4階多目的ホール 【対象】弘前大学生、教職員、市民一般、学生 【参加人数】20人
講 師	弘前大学 白石 壮一郎 姫路独協大学 岩谷 洋文 東京芸術大学 木村 直 国立療養所松丘保養園社会交流会館 澤田 大介 四天王寺大学 田原 範子 風土形成事務所/東京大学 廣瀬 俊介
内 容	ハンセン病の回復者の方がたが暮らす全国13か所の国立療養所では、入所者数の減少と入所者の超高齢化時代を迎えている。青森市石江にある松丘保養園（1909年創立）もそのひとつである。日本のハンセン病政策の問題とともに、歴史的な時間のなかで、この松丘保養園のなかでの生活がどのように営まれてきたのか、その生活の歴史をどのように継承すべきなのか。 わたしたちは、ある人や人びとの生活の記憶を想起させるモノの総称として「ライフドキュメント」を定義している。さまざまなライフドキュメントをもとに、松丘保養園の生活の歴史、そこに暮らした人びとの記憶と接すること。通常の「歴史」の教科書では書かれていない、そのような生活の記憶からの歴史との接し方の意義について話し合った。

消費者フォーラム in HIROSAKI

開催日	令和7年1月25日
主催・共催	【主催】弘前大学人文社会科学部、弘前大学教育学部、青森県消費者協会 【後援】青森県教育委員会、弘前市教育委員会、黒石市教育委員会、平川市教育委員会、西目屋村教育委員会、藤崎町教育委員会、大鰐町教育委員会、田舎館村教育委員会 【協力】青森中央学院大学、青森県立弘前中央高等学校、青森県立弘前高等学校、青森県消費者問題研究会
会場・対象 参加人数	【会場】弘前大学創立50周年記念会館みちのくホール オンライン/アーカイブ 【対象】弘前大学生、教職員、市民一般、学生 【参加人数】170人
講 師	白神自然学校一ツ森校 永井 雄人
内 容	本フォーラムは、地域連携の実践の場として消費者教育の推進に寄与することを目的として開催した。 今年度は、誰もが取り残されない地域づくりに向けた、みらいねっと弘前の取組についての基調講演、大学生のサポートによる中高生の「消費者市民社会に実現に向けた探究学習」の発表などを行った。

シンポジウム「青森県の裁判員裁判－これまでの15年間を振り返る」

開催日	令和6年11月16日
主催・共催	【主催】弘前大学人文社会科学部地域未来創生センター
会場・対象 参加人数	【会場】弘前大学創立50周年記念会館2階岩木ホール、オンライン 【対象】弘前大学生、教職員、市民一般、学生 【参加人数】50人
講 師	弘前大学 平野 潔 専修大学 飯 考行 宇都宮地方裁判所 古玉 正紀 東京地方裁判所 寺尾 亮 青森地方裁判所 小澤 光
内 容	裁判員裁判は「おおむね安定的かつ順調に運営されている」のか。市民の視点から、裁判員裁判の成果と課題を検証し、次の5年に向けて、どのように改善していくべきかを議論した。

弘前大学観光マイスター（社会人）プログラム（履修証明プログラム）

開催回数	75回
主催・共催	【主催】弘前大学人文社会科学部
会場・対象 参加人数	【対象】観光業に興味・関心のある社会人の方や、観光業などに従事する社会人の方 【参加人数】3人
講 師	弘前大学人文社会科学部 教授 森 樹男 弘前大学人文社会科学部 准教授 熊田 憲 弘前大学人文社会科学部 准教授 高島 克史 株式会社インアウトバウンド仙台・松島代表取締役 西谷 雷佐（非常勤講師）
内 容	観光業に関する様々な事項を体系的に学習させることにより、本県の観光産業を活性化させる人材の育成を目的としているプログラム。履修期間は1年間（希望により2年間も可能）で、全157.5時間のうち112.5時間以上の講義受講と学習報告書の提出を修了要件としている。令和6年度は第2期生が2名履修し、うち1名の修了が予定されている。

令和6年度三大学シンポジウム

「地域研究の知はどのように地域とつながるか：課題と可能性」

開催日	令和7年1月30日
主催・共催	【主催】弘前大学人文社会科学部地域未来創生センター
会場・対象 参加人数	【対象】弘前大学生、教職員、市民一般、学生、行政関係者、関係者 【参加人数】21人
講 師	弘前大学人文社会科学部 教授 李 永俊 三重大学人文学部 教授 深井 英喜 島根大学法文学部 教授 関 耕平

内 容	人文社会科学系の学問は、地域の豊かな文化資源を拾い上げ、地域に生きる人々と課題を解決していくことが期待されている。これまでも個々の研究者の研究活動、あるいはアウトリーチを通じて人文社会科学は地域と十分なかかわりを持ってきたといえる。他方で、研究によって生み出された成果がどのような長期的インパクトを持ちうるのかは必ずしも明確化されていない。本シンポジウムでは、弘前大学、三重大学、島根大学が地域に根差して展開してきた研究・実践の事例を共有し、研究の地域活用にかかわる課題と可能性を議論することをねらいとした。
-----	--

(2) 教育学部

大学の数学

開催日	①令和7年3月22日（中止） ②令和7年3月29日
主催・共催	【主催】弘前大学教育学部数学教育講座
会場・対象 参加人数	【会場】弘前大学教育学部1階大教室 【対象】高校生（青森、秋田、岩手、道南） 【参加人数】16人
講 師	弘前大学教育学部 講師 吉川 和宏 弘前大学教育学部 准教授 山本 稔
内 容	弘前大学教育学部数学教育講座教員による、数学好き高校生のための大学数学の講義

教員を目指す高校生のためのセミナー

開催日	①令和7年3月9日 ②令和7年3月15日 ③令和7年3月16日
主催・共催	【主催】弘前大学教育学部入試広報委員会
会場・対象 参加人数	【会場】①弘前大学教育学部1階大教室 ②青森県観光物産館アスパム 5階あすなろ ③八戸ユートリー8階 多目的中ホール 【対象】高校2年生（青森、秋田） 【参加人数】156人
講 師	①弘前大学教育学部 准教授 池田 泰弘 藤崎町立藤崎中央小学校 教諭 田中 宏輝 弘前大学教育学部長 高瀬 雅弘 ②弘前大学教育学部 准教授 田中 浩紀 青森市立浪館小学校 教諭 唐牛 利和 弘前大学教育学部長 高瀬 雅弘 ③弘前大学教育学部 准教授 原 郁水 八戸市立多賀台小学校 教諭 久保田 遥 弘前大学教育学部長 高瀬 雅弘
内 容	高校2年生を対象として、大学教員による講義・演習、現任教員による講話を通じて、教員・教職についての理解を深める機会とする。

高校生のためのデッサン教室

開催日	令和7年3月23日
主催・共催	【主催】弘前大学教育学部美術教育講座

会場・対象 参加人数	【会場】弘前大学教育学部 4階 美術制作室 【対象】高校生（青森、秋田、岩手、道南） 【参加人数】15人
講 師	弘前大学教育学部 教授 塚本 悦雄 弘前大学教育学部 准教授 佐藤 光輝 弘前大学教育学部 准教授 出 佳奈子
内 容	弘前大学教育学部美術教育講座教員による、高校生のためのデッサン教室。 モデルを見ながら人物デッサンを行い、事後に講評する。

教員研修講座「声でいざなう日本伝統音楽：華麗なる能の世界へ」

開催日	①令和6年12月15日 ②令和7年1月24日 ③令和7年2月15日 ④令和7年3月14日 ⑤令和7年3月15日
主催・共催	【主催】弘前大学教育学部
会場・対象 参加人数	【会場】弘前大学教育学部音楽ホール 【対象】学校教員、教育関係者、能や伝統音楽に興味のある市民一般・学生 【参加人数】36人
講 師	観世流能楽師 篠崎 珠樹 弘前大学教育学部音楽学研究室 朝山 奈津子
内 容	学校教育の音楽科における邦楽の重要性は、最新（平成29年度）の指導要領にも明記されるとおりであるが、楽器の維持管理と教員自身の専門知識・技能の習得に困難があり、大いに進んでいるとはいいがたい。そこで、謡の教材化を提案する。謡はアマチュア愛好家向けに制度を整えてきた側面があり、面はもちろん、所作や舞台装置、囃子（楽器）を必ずしも必要としない。鑑賞するだけでなく、授業の中で自分の息だけを使って演じることが可能である。なお、能の教材化はすでに能楽協会や各教員養成大学・学部によって進められつつあり、学校教員向けの研修会が都市部を中心に各地で開催されている。しかし青森県から講習会に出席するためには、移動や宿泊などの制約がある。本講座は研修機会を増やすという地域貢献を行いながら、参加者より本県ないし北東北の音楽科教育における現況を収集し、今後は更に地域の実情に合わせて研究会の継続を図る。

令和6年度弘前大学免許法認定講習

開催日	①令和6年7月15日～16日 ②令和6年7月27日～28日 ③令和6年8月1日～2日 ④令和6年8月19日～20日 ⑤令和6年8月22日～23日 ⑥令和6年12月21日～22日 ⑦令和6年12月26日～27日 ⑧令和7年1月11日～12日
主催・共催	【主催】弘前大学教育学部
会場・対象 参加人数	【会場】弘前大学 【対象】小学校教諭普通免許状取得後、小学校（特別支援学校小学部を含む）における教諭又は講師（ただし非常勤の講師を除く）として3年以上の実務経験を有し、中学校教諭 二種免許状（外国語（英語））を取得しようとする者 【参加人数】81人

講 師	弘前大学教育学部 教授 中野 博之 弘前大学教育学部 准教授 田中 拓郎 弘前大学教育学部 准教授 佐藤 崇之 弘前大学教育学部 准教授 池田 泰弘 弘前大学教育学部 准教授 佐藤 絵里子 弘前大学教育学部 教授 野呂 徳治 弘前大学教育学部 准教授 佐藤 剛 弘前大学教育学部 助教 新川 広樹 弘前大学教育学部 講師 中山 忠政
内 容	小学校外国語教科化に対応した専門性向上のため、免許法認定講習を実施。

令和6年度弘前大学免許法認定講習

開催日	①令和6年8月3日～10月12日 ②令和6年8月4日～10月13日 ③令和6年8月9日～8月10日 ④令和6年9月14日～9月15日 ⑤令和6年12月25日～12月26日 ⑥令和7年2月15日～2月16日 ⑦令和7年3月1日～3月2日
主催・共催	【主催】弘前大学教育学部
会場・対象 参加人数	【会場】弘前大学 【対象】中学校教諭普通免許状を有しており、中学校教諭二種免許状（技術）を取得しようとする国・公・私立学校の教諭又は講師 【参加人数】32人
講 師	弘前大学教育学部 教授 上之園 哲也 弘前大学教育学部 教授 勝川 健三 弘前大学教育学部 教授 櫻田 安志 弘前大学教育学部 准教授 廣瀬 孝
内 容	免許教科外教科担任となっている教員への研修の充実及び中学校教諭二種免許状（技術）を取得する機会の拡大のため、免許法認定講習を実施。

弘前大学教育学部附属四校園公開研究会

開催日	令和6年11月16日
主催・共催	【主催】弘前大学教育学部附属中学校、小学校、特別支援学校、幼稚園
会場・対象 参加人数	【会場】附属小学校・附属中学校 対面とライブ配信、テレビ会議によるハイブリッド型 【対象】教育関係者など 【参加人数】300人（対面 約50人 オンライン 約250人）
講 師	元武蔵大学人文学部 教授/一般社団法人ジェイス代表理事 武田 信子
内 容	「自ら考え 自律的に行動する子の育成」を全体研究テーマとした合同公開研究会を開催した。今年度も対面とライブ配信、によるハイブリッド型で実施。今年度は3回目となり、社会、外国語活動・英語、体育・保健体育の各教科の公開授業や研究協議会を行った。また、元武蔵大学人文学部教授で一般社団法人ジェイス代表理事 武田 信子先生を講師に招き、『子の学びを邪魔する育て方・しない育て方』をテーマとした講演会を実施。

大学の先生と一緒にピアノと音楽を学びたい高校生のための企画

開催日	①令和6年5月9日 ②令和6年6月6日 ③令和6年7月4日
-----	---

主催・共催	【主催】弘前大学教育学部音楽教育講座
会場・対象 参加人数	【会場】弘前大学教育学部 【対象】高校生2・3年生 【参加人数】3人
講 師	弘前大学教育学部 助教 小田 直弥
内 容	教育学部音楽教育講座ピアノ研究室では、高校2、3年生を対象とした「大学の先生と一緒にピアノと音楽を学びたい高校生のための企画」を開催。 「楽譜を読み込みたい」「姿勢や指、身体の使い方が合理的なのか分からない」「レッスン以外での効果的な練習方法が知りたい」などの課題について、作品の解釈と表現の連続と一緒に試したり、演奏科学等の研究知見も織り交ぜたりした40分/回の個人レッスンで解消を目指し、一緒にピアノと音楽を学んだ。

ひろさきで学ぶ 芸術歌曲の技と心 2024

開催日	令和6年8月10日
主催・共催	【主催】弘前大学教育学部音楽教育講座
会場・対象 参加人数	【会場】旧弘前偕行社 【対象】弘前地域在住・在学・在勤者 【参加人数】117人
講 師	弘前大学教育学部 教授 杉原 かおり 弘前大学教育学部 助教 小田 直弥 東京学芸大学 准教授 石崎 秀和 昭和音楽大学 准教授 森田 学
内 容	弘前大学教育学部声楽研究室・ピアノ研究室が主催し、声楽に関するお話と演奏会、公開レッスンを実施。講師は、本学教員である杉原かおり（教授、ソプラノ・リリコ）と小田直弥（助教、ピアノ）の他、石崎秀和氏（東京学芸大学准教授、バリトン）と森田学氏（昭和音楽大学准教授、バス）を招き、歌唱における「技」と「心」に触れる機会とする。

特別支援教育セミナー：障害のある子どもの支援や教育を考えてみよう！

開催日	令和7年3月26日
主催・共催	【主催】弘前大学教育学部学校教育講座（特別支援教育分野）
会場・対象 参加人数	【会場】弘前大学教育学部 【対象】高校生 【参加人数】6人
講 師	プログラム① 弘前大学教育学部 准教授 天海 丈久 プログラム② 弘前大学教育学部 教授 増田 貴人
内 容	プログラム① 「特別支援教育に携わる先生を目指そう！」 プログラム② 「障害疑似体験から支援を考えてみよう」

若手教師のためのリフレクション第一歩2024

開催日	①令和6年8月9日 ②令和7年3月28日
主催・共催	【主催】弘前大学教育学部

会場・対象 参加人数	【会場】弘前大学教育学部4階 センター会議室 【対象】校種問わず若手教師 【参加人数】8人
講 師	弘前大学教育学部 教授 福島 裕敏 弘前大学教育学部 教授 宮崎 充治 弘前大学教育学部 助教 吉崎 聡子 弘前大学教育学研究科 助教 若松 大輔
内 容	若手教師のための リフレクション第一歩として、以下の内容を実施。 ①第1回 やってみよう、省察！～省察とは何か：実践的に学ぶ～ ②第2回 自分を深掘りしよう！～教師としての足場の再構築～

道徳科授業 UPGRADE プログラム

開催日	①令和6年8月6日 ②令和6年12月27日
主催・共催	【主催】弘前大学教育学部
会場・対象 参加人数	【会場】八戸市社会福祉協議会 総合福祉会館 【対象】教育関係者 【参加人数】9人
講 師	弘前大学教育学部 教授 福島 裕敏 弘前大学教育学部附属中学校 教諭 佐々木 篤史
内 容	令和4年7月1日より教員免許更新制が発展的に解消されたことを受け、教育学部ではその後継となる『新たな教師の学び』として、教員のための研修活動を新たに企画した。

グロウアップ講座2024①

開催日	①令和6年8月6日 ②令和6年10月31日
主催・共催	【主催】弘前大学教職大学院 【共催】青森県教育委員会
会場・対象 参加人数	【会場】弘前大学創立50周年記念会館岩木ホール 【対象】公立及び私立学校教員、附属学校園教員、教職大学院現職教員院生 【参加人数】40人
講 師	弘前大学教職大学院 助教 若松 大輔 弘前大学教職大学院 教授 中野 博之 弘前大学教職大学院 教授 菊地 一文 他、教職大学院教員
内 容	最新の教育評価の知識をアップデートして、子どもたちの様々な学びや育ちを見取るためのパフォーマンス課題やルーブリックの作成と実践を踏まえた検討会を行った。

グロウアップ講座2024②

開催日	①令和6年7月23日 ②令和6年9月19日
主催・共催	【主催】弘前大学教職大学院 【共催】青森県教育委員会
会場・対象 参加人数	【会場】弘前大学創立50周年記念会館岩木ホール 【対象】公立及び私立学校教員、附属学校園教員、教職大学院現職教員院生 【参加人数】40人

講 師	弘前大学教職大学院 教授 三戸 延聖 弘前大学教職大学院 教授 菊地 一文 弘前大学教職大学院 教授 吉田 美穂 弘前大学教育学部 教授 福島 裕敏 他、教職大学院教員及び修了生講師
内 容	「勤務校を深く知るための質的調査」とおした「勤務校の現状と課題」の把握により、ミドルリーダーとしての役割を再考するとともに「学校を活性化する実践」を描く。

令和6年度指導主事研修会

開催日	令和6年7月6日
主催・共催	【主催】弘前大学教職大学院 【共催】青森県教育委員会 NITSとのコラボ研修
会場・対象 参加人数	【会場】弘前大学教育学部中教室、八戸ユートリー、オンライン会場 【対象】全国の教育機関の指導主事・主任指導主事等 【参加人数】26人
講 師	弘前大学大学院教育学研究科 教授 中野 博之 加賀市地域プロジェクトマネージャー 小林 湧 弘前市教育委員会 学校教育推進監 福田 真実
内 容	指導主事を対象とした研修会。「学校現場にどう助言し関わるか」についての講義・演習、指導主事経験者による講演として指導主事としての役割や可能性について語り合う協議、NITSの教授による講義等で構成した午前・午後にはわたる研修会。2会場をオンライン結ぶとともにオンライン会場も設定した。

令和6年度充実期研修講座

開催日	令和6年7月中旬～令和6年11月28日
主催・共催	【主催】弘前大学教職大学院、青森県教育委員会 【支援】独立行政法人教職員支援機構 【後援】青森県小学校長会、青森県中学校長会、青森県高等学校長協会、青森県特別支援学校校長会
会場・対象 参加人数	【会場】弘前大学教育学部、オンライン 【対象】学校長の推薦を得た主として30代後半～40代の県内学校教員（教諭・養護教諭等） 【参加人数】27人
講 師	教職大学院教員
内 容	青森県教育職員研修計画の研修体系に位置付けられた講座であり、育成指標において充実期教員に求められる「マネジメント力」及び「指導力」の伸長を図ることを目的として実施。教職大学院教員のコンサルテーションを受けながら、実際に勤務校においてアクション・プランに取り組む。多忙な充実期の教員に配慮して、オンラインと集合研修（2日）を組み合わせる実施。

NITS弘前大学センター「インクルーシブな学びの場を考えるセミナー2024」

開催日	令和6年10月5日
主催・共催	【主催】NITS弘前大学センター 【後援】青森県教育委員会、弘前市教育委員会

会場・対象 参加人数	【会場】弘前大学教育学部、オンライン 【対象】学校関係者（教員・保護者・子ども本人）、関係機関職員（福祉、行政、NPO等）、市民、大学生・大学院生等 【参加人数】103人
講 師	東京大学先端科学技術研究センター シニアリサーチフェロー 中邑 賢龍 弘前大学教育学部 教授 宮崎 充治
内 容	子どもの側から見た学校について考え、対話を通じてそのあり方について検討することで、今後のインクルーシブな学びの場の創出に資する。

令和6年度NITS・弘前大学教職大学院コラボ研修

「学校と保護者のいい関係づくり～トラブルを大きくさせないために学校が気をつけるべきこと～」

開催日	令和7年1月11日
主催・共催	【共催】弘前大学大学院 教育学研究科 教職実践専攻[教職大学院]院生企画部、独立行政法人 教職員支援機構（NITS） 【後援】青森県教育委員会
会場・対象 参加人数	【会場】弘前大学教育学部2階大教室 【対象】高校生 【参加人数】10人
講 師	弘前大学教職大学院ミドルリーダー養成コース1年 長嶺 海 大阪大学 名誉教授（講演者） 小野田 正利 青森県スクールロイヤー・木下綜合法律事務所 木下 晴耕 弘前大学教職大学院ミドルリーダー養成コース1年 三戸 大志
内 容	講演者の小野田正利氏と青森県のスクールロイヤーとして活躍されている木下 晴耕氏を迎え、弘前大学教職大学院生と共にパネルディスカッションを行った。

令和6年度NITS弘前大学センター公開セミナー

開催日	①令和7年1月25日 ②令和7年2月8日
主催・共催	【主催】NITS弘前大学センター 【共催】青森県教育委員会
会場・対象 参加人数	【会場】オンライン 【対象】教員等 【参加人数】86人
講 師	①弘前大学教育学部 准教授 池田 泰弘 弘前大学教育学部 教授 吉田 美穂 ②埼玉大学 渡辺 大輔 関西大学 神谷 拓
内 容	最新の教育課題を幅広く扱い、専門家の方々からお話を伺った。すべてオンライン開催で、県外の方も参加可能とし、同一日に二つの回を設定し実施。

（3）農学生命科学部

令和6年度 弘前大学農学生命科学部市民公開講座

開催日	令和6年10月20日
-----	------------

主催・共催	【主催】弘前大学農学生命科学部
会場・対象 参加人数	【会場】農学生命科学部433講義室 【対象】一般、教職員、学生等 【参加人数】30人
講 師	弘前大学農学生命科学部 附属生物共生教育研究センター 教授 伊藤 大雄
内 容	21世紀中後半に青森県で予想される気候変化と、リンゴ栽培や稲作への影響について、講師である伊藤大雄教授の研究成果を紹介した。

弘前大学農学生命科学部市民公開講座「日本と台湾の自然共生の道」

開催日	令和6年12月15日
主催・共催	【主催】弘前大学農学生命科学部 【共催】公益財団法人砂防学会東北支部
会場・対象 参加人数	【会場】ヒロロ3F 多世代交流室2（ハイブリッド開催） 【対象】一般、教職員、学生等 【参加人数】30人
講 師	弘前大学農学生命科学部 准教授 鄒 青穎 弘前大学農学生命科学部 助教 矢田谷 健一 弘前大学農学生命科学部学生
内 容	11月4日～9日に農学生命科学部2年生を対象とした台湾での現地研修を行い、「グリーンイノベーションと共生の道：環境へのエンジニアリングソリューション」をテーマに、台湾の洋上風力発電、漁業との共存、生態系再生、そして八田與一が遺した農業土木施設について学んだ成果を報告した。

公開講座「リンゴを科学する」

開催日	令和7年1月26日
主催・共催	【主催】弘前大学農学生命科学部附属生物共生教育研究センター藤崎農場 【共催】板柳町 【後援】弘前市、平川市、藤崎町
会場・対象 参加人数	【会場】板柳町多目的ホール「あぷる」 【対象】リンゴ生産者、リンゴ産業関係者、一般市民 【参加人数】90人
講 師	弘前大学農学生命科学部 教授 伊藤 大雄 弘前大学農学生命科学部 教授 張 樹槐 農業・食品産業技術総合研究機構 上級研究員 岸本 英成 弘前大学人文社会科学部 教授 黄 孝春
内 容	リンゴに関する最新情報の提供及び取組事例の紹介等

（４）大学院医学研究科

弘前大学大学院医学研究科公開講座「こどもの健康 ～最近の話題～」

開催日	令和6年9月6日
-----	----------

主催・共催	【主催】 弘前大学大学院医学研究科 【共催】 公益社団法人青森医学振興会
会場・対象 参加人数	【会場】 医学研究科講義棟 【対象】 一般市民の方、学生、教職員 【参加人数】 59人
講 師	講演1：三沢市立三沢病院 小児科 医長 鈴木 友希 講演2：国立病院機構青森病院 小児科 医長 品川 友江 講演3：弘前大学大学院医学研究科 小児科学講座 教授 照井 君典
内 容	地域に貢献することを目的として、一般市民の方を対象とする公開講座を実施した。会場（対面）での開催と同時に、Microsoft Teamsを利用したオンライン配信を行った。 講演1：こどものアレルギー ～うまくつきあおう！～ 講演2：発達障害（神経発達症）を知ろう 講演3：小児と AYA（思春期・若年成人）世代のがんについて

弘前大学大学院医学研究科「健康・医療講演会」
体重は健康のパロメーター ～お腹まわりが気になるあなたへ～

開催日	令和6年10月26日
主催・共催	【主催】 弘前大学大学院医学研究科 【共催】 青森県立中央病院、公益社団法人青森医学振興会
会場・対象 参加人数	【会場】 新町キューブ3階会議室 【対象】 一般市民の方 【参加人数】 15人
講 師	講演1：青森県立中央病院 健康推進室 室長 丸山 博行 講演2：弘前大学大学院医学研究科 内分泌代謝内科学講座 教授 藤田 征弘
内 容	地域に貢献することを目的として、青森県内及び近隣自治体病院の協力のもとに、一般市民の方を対象とする講演会を実施する。今年度は青森県立中央病院との共催により実施した。 講演1：生活習慣病にならないために 講演2：糖尿病を中心とした生活習慣病の最近の話題

（５）大学院保健学研究科

育児中の母親のためのリフレッシュ講座

開催日	①令和6年5月8日	②令和6年5月29日	③令和6年6月5日
	④令和6年6月14日	⑤令和6年7月19日	⑥令和6年8月20日
	⑦令和6年8月22日	⑧令和6年8月26日	⑨令和6年9月5日
	⑩令和6年9月6日	⑪令和6年10月25日	⑫令和6年11月15日
	⑬令和6年12月20日	⑭令和7年1月10日	⑮令和7年1月24日
	⑯令和7年2月6日	⑰令和7年3月14日	

主催・共催	【共催】 弘前大学大学院保健学研究科 ①④⑤⑦⑨⑪⑫⑬⑮ 弘前市駅前こどもの広場 ②⑰ 大浦保育園地域子育て支援センター ③ 中泊町教育委員会、こども保育園子育て支援センター ⑥ 中泊町教育委員会、中里こども園子育て支援センター ⑧⑭ みどり保育園地域子育て支援センター ⑩ 岩木児童センター ⑯ 弘前大学医学部附属病院 小児病棟
会場・対象 参加人数	【会場】 ①④⑤⑦⑨⑪⑫⑬⑮ 弘前市駅前こどもの広場 ②⑰ 大浦保育園 ③ こども保育園 ⑥ 中里こども園 ⑧⑭ みどり保育園 ⑩ 岩木児童センター ⑯ 弘前大学医学部附属病院 小児病棟 【対象】 育児中の母親 【参加人数】 73人
講 師	弘前大学大学院保健学研究科看護学領域 准教授 北島 麻衣子 弘前大学大学院保健学研究科看護学領域 助教 橋本 美亜
内 容	本事業は、地域で子育てをしている母親を対象に、リフレッシュ講座を開催するものである。この講座の実施により、地域で子育てをしている母親が心身ともに健やかに生活していくための一助とすること、ならびに、講座の開催を通じて教育・知的資源を地域社会へ還元すると同時に地域社会から学ぶ機会とすることを目的としている。講座の内容は、精油を用いた制作体験（ハンドクリーム、エアーフレッシュナー、蜜蝋缶など）、ヨーガ、子どもの看護や子育てに関する講話など、ニーズに合わせて講座内容を工夫しながら実施している。

心理支援科学専攻設置記念公開講座

「心のネットワークを築く：地域と共に歩む公認心理師の役割」

開催日	①令和6年5月25日 ②令和6年6月9日 ③令和6年8月3日
主催・共催	【主催】 弘前大学大学院保健学研究科 心理支援科学専攻 【後援】 青森県、青森県教育委員会、弘前市、弘前市教育委員会、青森県公認心理師・臨床心理士協会
会場・対象 参加人数	【会場】 弘前大学創立50周年記念会館みちのくホール 【対象】 一般市民の方、心理支援職者、医療・教育・福祉関係者、自治体職員、学生、その他、興味のある方はどなたでも参加可能 【参加人数】 400人
講 師	①弘前大学大学院保健学研究科 准教授 岡田 敦史、他 ②弘前大学大学院保健学研究科 教授 斉藤 まなぶ、他 ③弘前大学大学院保健学研究科 教授 大庭 輝、他
内 容	令和6年4月の大学院新設を記念して公開講座を開催する。本講座は、精神疾患や神経発達症、認知症など、現代社会における心の健康に関する課題への理解を深め、地域社会全体で心理支援職者の育成という目標を共有する。

弘前市民公開講座

「いま知っておくべき認知症の新知识～病態を踏まえた治療・家族サポート～」

開催日	令和7年2月8日
-----	----------

主催・共催	【主催】 弘前大学大学院保健学研究科 生体応答科学研究センター
会場・対象 参加人数	【会場】 弘前大学創立50周年記念会館みちのくホール 【対象】 一般市民 【参加人数】 35人
講 師	弘前大学医学研究科バイオメディカルリサーチセンター 脳神経内科学講座 教授・医師 富山 誠彦 弘前大学大学院保健学研究科 総合リハビリテーション科学領域 講師・作業療法士 小枝 周平 弘前大学大学院保健学研究科 心理支援科学領域 教授・公認心理師・臨床心理士 大庭 輝
内 容	認知症の病態や最新の治療法に関する情報提供のほか、認知症に関する専門職の関わりについて実践例とともに紹介することにより、認知症を支える専門職の役割についても理解を深めていただくことが目的のイベント。

令和6年度子ども家庭科学研究補助金（成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業）

『乳幼児健診におけるこどもの睡眠指導～近年の健診動向と子どもの健康への理解～』

開催日	令和7年2月12日
主催・共催	【主催】 弘前大学保健学研究科斉藤研究室 【共催】 青森県こどもみらい課、青森県発達障がい者支援センターステップ
会場・対象 参加人数	【会場】 オンライン【オンデマンド有】 【対象】 自治体職員、保育士、教師等、子どもに関わる職種の方 【参加人数】 222人
講 師	弘前大学保健学研究科心理支援課学科領域 教授 斉藤 まなぶ
内 容	近年の乳幼児健診の動向や子ども家庭庁が新たに推奨する睡眠保健指導に関する理解を深めること

知らねばまいね 認知症

開催日	令和6年9月15日
主催・共催	【主催】 弘前大学大学院保健学研究科 心理支援科学専攻 弘前大学医学部心理支援科学科 老年臨床心理学研究室 【共催】 公益社団法人認知症の人と家族の会 【協賛】 タムラファーム株式会社
会場・対象 参加人数	【会場】 ヒロロスクエア多世代交流室Ⅰ、フリースペース 【対象】 弘前市内の一般市民 【参加人数】 70人
講 師	弘前大学 教授 大庭 輝 公益社団法人認知症の人と家族の会青森支部 加福 雅行
内 容	世界アルツハイマー月間に合わせて、地域における認知症に関する理解の普及・啓発を図ることを目的に実施した。講話に加えて子どもを対象としたクラフトワークを実施し、付き添いの保護者に講話への参加促しや認知症に関する情報を記載した手作りのパンフレットを配布した。

青森労災病院・弘前大学生体応答科学研究センター共催「八戸市民公開講座」

開催日	令和6年9月21日
-----	-----------

主催・共催	【共催】弘前大学大学院保健学研究科 生体応答科学研究センター、青森労災病院
会場・対象 参加人数	【会場】弘前大学八戸サテライト 【対象】高校生、一般市民 【参加人数】25人
講 師	ストックホルム大学 教授 Andrzej Wojcik 青森労災病院 副院長 真里谷 靖 ストックホルム大学 博士 Prabodha Kumar Meher
内 容	がん放射線治療の基礎知識や取り組みなどを紹介、放射線治療の啓蒙のほか海外の大学教授による講義で学生たちに英語に触れてもらうことが目的。医療人を目指す高校生や市民が聴講した。

(6) 大学院理工学研究科

電子情報通信学会 VLD/MSS/CAS/SIP 合同研究会

開催日	①令和6年7月18日 ②令和6年7月19日
主催・共催	【主催】電子情報通信学会 【共催】弘前大学大学院理工学研究科
会場・対象 参加人数	【会場】弘前大学創立50周年記念会館みちのくホール 【対象】研究者、教員、学生 【参加人数】81人
講 師	弘前大学大学院理工学研究科 教授 今井 雅（他 講演者25名）
内 容	電子情報通信学会の4つの研究専門委員会の合同研究会を開催した。VLSI設計技術(VLD)、システム数理と応用(MSS)、回路とシステム(CAS)、信号処理(SIP)に関する25件の研究成果が発表され、活発な意見交換・質疑応答が行われた。

軽金属学会 第1回東北地区講演会

開催日	令和6年7月19日
主催・共催	【主催】軽金属学会東北支部 【共催】弘前大学大学院理工学研究科
会場・対象 参加人数	【会場】弘前大学理工学部 【対象】弘前大学大学院学生、教職員、地域の社会人で、軽金属に関する研究に興味のある方 【参加人数】39人
講 師	東北大学大学院工学研究科 准教授 上田 恭介 東北大学大学院工学研究科 Huang JinXian
内 容	軽金属材料の最先端の研究成果を地域の社会人・研究者・学生と共有するための、学術講演会。学会員に限定せず、地域の関係者に聴講を認めている。

夏休みの数学

開催日	①令和6年8月3日 ②令和6年8月4日
主催・共催	【主催】弘前大学理工学研究科

会場・対象 参加人数	【会場】 弘前大学理工学部 【対象】 中学校、高校の数学担当教員、一般市民、高校生 【参加人数】 47人
講 師	弘前大学大学院理工学研究科 教授 金 正道 弘前大学大学院理工学研究科 准教授 江居 宏美
内 容	中学校や高等学校の数学の教科書に出てくる数学の世界のすぐ近くに面白い話題がたくさんあり、そのような数学の魅力の一端を高校生や一般の市民の方に知ってもらうための企画。

化学への招待

開催日	令和6年8月9日
主催・共催	【主催】 日本化学東北支部、弘前大学大学院理工学研究科 【後援】 弘前市教育委員会、青森県教育委員会、東北ポリマー懇話会、弘化会
会場・対象 参加人数	【会場】 弘前大学 理工学部、教育学部、農学生命科学部 【対象】 高校生、中学生、一般市民 【参加人数】 48人
講 師	弘前大学大学院理工学研究科 助教 関 貴一 弘前大学大学院理工学研究科 准教授 北川 文彦 弘前大学理工学研究科 准教授 野田 香織 弘前大学大学院理工学研究科 教授 竹内 大介 弘前大学大学院理工学研究科 助教 関口 龍太 弘前大学大学院理工学研究科 教授 伊東 俊司 弘前大学農学生命科学研究科 准教授 栗田 大輔 弘前大学大学院理工学研究科 助教 呉羽 拓真 弘前大学教育学部 准教授 岩井 草介 弘前大学大学院理工学研究科 准教授 山崎 祥平 弘前大学大学院理工学研究科 教授 阿部 敏之
内 容	先端科学・技術の一端を担う化学に興味を抱いてもらえるよう、中学・高校生を対象に開催している。

2024 年度リフレッシュ理科教室 ひかりで音をならそう！

開催日	令和6年8月19日
主催・共催	【主催】 応用物理学会東北支部 【共催】 弘前大学理工学部電子情報工学科、秋田大学、岩手大学、東北大学、山形大学、日本大学工学部 【後援】 青森県教育委員会、弘前市教育委員会
会場・対象 参加人数	【会場】 弘前大学理工学部 【対象】 理科に興味のある小中学生と保護者 【参加人数】 37人
講 師	弘前大学大学院理工学研究科 教授 中澤 日出樹 弘前大学大学院理工学研究科 准教授 渡邊 良祐 弘前大学教育学部 准教授 島田 透 東北大学大学院工学研究科 教授 宮崎 譲 山形大学大学院理工学研究科 准教授 大音 隆男 東北文化学園大学工学部 教授 鈴木 伸夫

内 容	小・中学校生徒を対象とした実験工作の体験を通じて、科学に対する理解を深めていただく機会を提供することを目的とする。今年度は半導体を利用して、光を音に変換して楽器をつくる工作を実施した。
-----	--

銀河・銀河間ガス研究会2024

開催日	①令和6年8月19日 ②令和6年8月20日 ③令和6年8月21日 ④令和6年8月22日
主催・共催	【主催】銀河・銀河間ガス研究会2024組織委員会 【共催】弘前大学大学院理工学研究科、弘前大学宇宙物理学研究センター
会場・対象 参加人数	【会場】弘前大学創立50周年記念会館岩木ホール 【対象】研究者、大学院生 【参加人数】179人
講 師	国立天文台 石垣 美歩 筑波大学 福島 肇 信州大学 三澤 透 名古屋大学 市來 淨與 関西学院大学 中井 直正 大阪大学 豊内 大輔
内 容	本研究会は、特に銀河に関わる天文学分野の最新の研究成果を共有し、新たな共同研究へと発展させることを目的とした研究会である。招待講演および一般講演の他に、少人数によるグループワークを実施し、具体的な研究テーマの立案を通して、若手育成及び人材交流を促進する。

電子情報通信学会合同研究会

開催日	①令和6年8月29日 ②令和6年8月30日
主催・共催	【主催】電子情報通信学会 【共催】弘前大学大学院理工学研究科、日本信頼性学会、IEEE Reliability Society Japan Chapter 【後援】EEE Photonics Society Kansai Chapter
会場・対象 参加人数	【会場】弘前大学創立50周年記念会館岩木ホール 【対象】電子情報通信学会一般会員、学生会員、一般非会員、学生非会員 【参加人数】83人
講 師	弘前大学大学院理工学研究科 教授 中澤 日出樹（他 講演者15名）
内 容	大学、研究機関、企業等有する、電子情報通信分野に関わる最新の研究成果を発表・討論する研究会を開催。（電子情報通信学会）本年度は、「受光素子、変調器、光部品・電子デバイス実装・信頼性、及び一般」を議題として取り上げ、5つの研究専門委員会（CPM、R、EMD、OPE、LQE）による合同研究会として開催。

有機合成化学協会東北支部主催「青森地区講演会」

開催日	令和6年10月31日
主催・共催	【主催】有機合成化学協会東北支部 【共催】弘前大学大学院理工学研究科
会場・対象 参加人数	【会場】弘前大学創立50周年記念会館みちのくホール 【対象】弘大生、教職員、研究者 【参加人数】96人

講 師	東北大学大学院理学研究科 教授 寺田 昌浩
内 容	有機合成化学協会東北支部の支援により、東北支部に所属する各地区持ち回りで開催されている講演会で、常日頃このような講演会の開催の少ない各地区の学生・教職員を対象に有機合成化学の最先端の講演を受ける貴重な機会を提供する。

電子情報通信学会 HWS/ICD 合同研究会

開催日	令和6年11月1日
主催・共催	【主催】電子情報通信学会 【共催】弘前大学大学院理工学研究科
会場・対象 参加人数	【会場】弘前大学創立50周年記念会館みちのくホール 【対象】研究者、教員、学生 【参加人数】46人
講 師	弘前大学大学院理工学研究科 教授 今井 雅（他 講演者12名）
内 容	電子情報通信学会の2つの研究専門委員会の合同研究会を開催した。ハードウェアセキュリティ(HWS)、集積回路(ICD)に関する12件の研究成果が発表され、活発な意見交換・質疑応答が行われた。

2024年度 日本化学会東北支部青森地区講演会

開催日	令和6年11月1日
主催・共催	【主催】日本化学会東北支部 【共催】弘前大学大学院理工学研究科
会場・対象 参加人数	【会場】弘前大学理工学部 【対象】弘前大学生、教職員 【参加人数】70人
講 師	芝浦工業大学工学部 准教授 廣井 卓思
内 容	化学関連の研究者を招聘し、弘前大学や近隣大学の学生・教職員等を対象に、講演者の最先端研究についての講演会を開催。

電子情報通信学会東北支部講演会

開催日	令和6年11月29日
主催・共催	【主催】電子情報通信学会東北支部 【共催】弘前大学大学院理工学研究科 【協賛】IEEE仙台支部
会場・対象 参加人数	【会場】弘前大学創立50周年記念会館みちのくホール 【対象】弘大生、研究者、教職員 【参加人数】58人
講 師	浜松ホトニクス株式会社 中央研究所 橋本 二三生
内 容	X線コンピュータ断層撮影装置(CT)や陽電子放出断層撮影装置(PET)といったドーナツ状の大型装置は、人体をスライスして撮影をしたわけではないのに、どうして人体の輪切り画像を取得できるのだろうか。本講演では、これら断層撮影装置の画像化の鍵となる画像再構成技術について、どのような原理で、どんな計測データが、どのように処理され人体の輪切り画像になっていくのか、平易に解説し、また、AI技術の発展により高度化した最新の画像再構成手法についての議論も行った。

第12回弘前非線形方程式研究会

開催日	①令和6年11月29日 ②令和6年11月30日
主催・共催	【主催】弘前非線形方程式研究会 【共催】弘前大学大学院理工学研究科 【協力】日本学術振興会 科学研究費補助金
会場・対象 参加人数	【会場】弘前大学総合教育棟 【対象】全国の研究者、弘前大学生・大学院生など 【参加人数】29人
講 師	神奈川大学 津原 駿 日本大学 水野 将司 東京科学大学 利根川 吉廣 早稲田大学 飯田 祥樹 室蘭工業大学 可香谷 隆 室蘭工業大学 若狭 恭平 京都大学 前川 泰則
内 容	全国から研究者が参加し、自然現象や社会現象などを記述する様々な非線形微分方程式の数学解析に関する最新の研究成果の発表および討論を実施。

日本金属学会東北支部地区研究発表大会

開催日	令和6年12月4日
主催・共催	【主催】日本金属学会東北支部 【共催】弘前大学大学院理工学研究科
会場・対象 参加人数	【会場】弘前大学創立50周年記念会館みちのくホール 【対象】金属材料に関する最近の研究成果に興味を持つ研究者、学生、社会人（民間企業、自治体職員等） 【参加人数】59人
講 師	日本金属学会フェロー・九州大学 教授 東田 賢二 物質・材料研究機構 構造材料研究センター長 大村 孝仁 東北大学 教授 鈴木 茂 日本大学 教授 上野 俊吉、他
内 容	金属材料に関する国内の著名研究者による講演、および東北地区の研究・教育機関における金属材料に関する研究成果の発表大会。

令和6年度 高分子学会東北地区先端高分子セミナー

開催日	①令和7年3月17日 ②令和7年3月18日
主催・共催	【主催】高分子学会東北支部 【共催】弘前大学大学院理工学研究科
会場・対象 参加人数	【会場】弘前大学理工学部 【対象】弘前大学生、教職員、高分子学会員 【参加人数】40人
講 師	東北大学 助教 渡部 花奈子 山形大学 助教 野澤 恵理花 弘前大学理工学研究科 准教授 太田 俊 弘前大学理工学研究科 博士後期2年 木村 なな子

内 容	高分子化学・材料化学関連の研究の第一線で活躍されている研究者を招聘し、高分子学会員や本学の学生・教職員等を対象に、講演者の最先端研究についての講演会を開催した。
-----	--

一般相対論と宇宙論研究会

開催日	令和7年3月22日
主催・共催	【主催】「一般相対論と宇宙論研究会」実行委員会 【共催】弘前大学大学院理工学研究科 宇宙物理学研究センター
会場・対象 参加人数	【会場】弘前大学理工学部 【対象】弘前大学生、教職員、天文学会会員、理論懇親会会員 【参加人数】40人
講 師	日本大学 荒木田 英禎 大阪公立大学 石原 秀樹 弘前大学 倉又 秀一 広島大学 小嶋 康史 高知工科大学 須藤 靖 神戸大学 早田 次郎 仙台高専 林 航平 ASIAA/東北大学 二間瀬 敏史 理研/お茶の水女子大学 森川 雅博
内 容	背景重力波の観測や超巨大ブラックホールの撮像、宇宙加速膨張の精密測定が行われている近年の観測的な進捗状況を踏まえ、一般相対性理論、宇宙論、宇宙物理学に関する研究会を開催。参加者間の議論の場を提供する。

(7) 大学院地域社会研究科

弘前大学大学院地域社会研究科 令和6年度公開セミナー

開催日	①令和6年10月31日 ②令和6年11月6日 ③令和6年11月26日
主催・共催	【主催】弘前大学大学院地域社会研究科
会場・対象 参加人数	【会場】土手町コミュニティーパーク、オンライン配信（アップルストリーム） 【対象】興味のある方 【参加人数】356人
講 師	①弘前大学地域社会研究科 教授 李 永俊 弘前大学地域社会研究科 教授 飯島 裕胤 ②弘前大学地域社会研究科 教授 平井 太郎 弘前大学地域社会研究科 教授 今田 匡彦 ③弘前大学地域社会研究科 教授 福島 裕敏 弘前大学地域社会研究科 教授 増田 貴人
内 容	地域社会研究科の授業内容を地域住民を対象に公開することにより、地域住民が大学院レベルの専門的知識を用いて、地域の課題解決のための担い手となる人財育成を目的とし、本研究科の3つの講座が、それぞれの特徴を活かした講義を実施した。

**弘前大学大学院地域社会研究科 地域研究プロジェクトシンポジウム
「りんご新品種の商業化を考える」**

開催日	令和6年12月23日
主催・共催	【主催】弘前大学大学院地域社会研究科
会場・対象 参加人数	【会場】弘前市総合学習センター大会議室 【対象】県、市町村、農協、りんご移出業者、生産者、その他りんご関係者 【参加人数】85人
講 師	弘前大学地域社会研究科 教授 黄 孝春 弘前大学地域社会研究科大学院生 三上 浩樹 コレグオ・ジャパン社長 今 智之 りんご研究所品種開発部長 木村 佳子 弘前工業研究所 主幹専門研究員 赤田 朝子 弘前大学GAP相談所長 山野 豊
内 容	地域社会研究科の研究助成を用いて実施したプロジェクトにおいて、りんご新品種の商業化におけるクラブ制導入の可能性とその導入のスキームを実践的・政策的に検討し、高品質・安定生産によるブランド化を通じて地域のりんご産業の活性化を目指すことを目的とし、青森県内関連業者を集めたシンポジウムを開催した。

(8) 大学院地域共創科学研究科

弘前大学大学院地域共創科学研究科「地域共創シンポジウム2024」

開催日	令和7年1月28日
主催・共催	【主催】弘前大学大学院地域共創科学研究科
会場・対象 参加人数	【会場】弘前大学創立50周年記念会館岩木ホール 【対象】興味のある方 【参加人数】5人
講 師	弘前大学地域共創科学研究科 教授 勝川 健三 弘前大学地域共創科学研究科 教授 官 国清 弘前大学地域共創科学研究科 准教授 古村 健太郎 弘前大学地域共創科学研究科 准教授 上原子 晶久 シロバナタンポポ保全団体「シロバナの再考」代表 北畠 清美 新潟大学創生学部 准教授 澤邊 潤 NPO法人青森未来エネルギー戦略会議 理事 (株式会社トリニティー代表取締役社長) 猪股 仁 株式会社キタコン企画管理部 藤田 弘昭
内 容	社会学・工学・経営学・農学を中心に、関連諸学や地域機関・市民との協働により、「地域を守り」「地域から攻める」ことに資する研究シーズの探査や基礎研究および応用研究を意味する「共創研究」に関する研究成果を紹介するシンポジウムを実施した。

地域に即した地震災害軽減を目指してー能登半島地震に学ぶー

開催日	令和7年2月28日
-----	-----------

主催・共催	【主催】弘前大学大学院地域共創科学研究科、弘前大学大学院理工学研究科 【後援】東奥日報、陸奥新報、青森県、弘前市、弘前地区消防事務組合、NHK青森放送局
会場・対象 参加人数	【会場】弘前大学教育学部大教室 【対象】青森県民、青森県内の自治体職員（消防職員を含む）、弘前大学学生 【参加人数】112人
講 師	弘前大学地域共創科学研究科 教授 片岡 俊一 弘前大学地域共創科学研究科 教授 小岩 直人 弘前大学地域共創科学研究科 教授 平井 太郎 弘前大学地域共創科学研究科 教授 梅田 浩司 弘前大学地域共創科学研究科 教授 泉谷 眞実 弘前大学地域共創科学研究科 教授 石塚 哉史 弘前大学地域共創科学研究科 准教授 上原子 晶久 弘前大学地域共創科学研究科 准教授 道家 涼介 弘前大学理工学研究科 教授 前田 拓人 弘前大学農学生命科学部 助教 岸岡 智也 弘前大学被ばく医療連携推進機構 教授 伊藤 勝博
内 容	「令和6年能登半島地震」をきっかけに、地域共創科学研究科で発足した特別研究プロジェクトの研究報告を行うとともに、学内の教員にも参加いただき、地震の多面的な様相を報告し、今後の地震災害軽減のために、被害様相の原因を解明することや、被害への対応を学ぶことを目的として開催する。

（９）医学部附属病院

専門看護師・認定看護師による公開講座

開催日	①令和6年6月13日 ②令和6年9月24日 ③令和6年11月14日
主催・共催	【主催】弘前大学医学部附属病院 看護部
会場・対象 参加人数	【会場】メディカルスタッフ研修室 【対象】地域の看護師 【参加人数】30人
講 師	糖尿病看護認定看護師 桜庭 咲子 手術看護専門看護師 石岡 朋子 緩和ケア認定看護師 佐藤 千紗斗 慢性心不全看護認定看護師 佐藤 みな
内 容	専門看護師・認定看護師による確かな知識と技術を学び、各医療機関でよりよい看護サービスを提供し、患者の早期回復の支援となることを目的としている。 今年度は、①糖尿病治療薬の知識、②術前看護の基礎知識、③「非がん」の緩和ケアをテーマとした。

青森県感染対策協議会（AICON）市民公開講座

開催日	令和6年7月20日
主催・共催	【主催】青森県感染対策協議会（AICON） 【共催】弘前大学医学部附属病院 【後援】青森県
会場・対象 参加人数	【会場】弘前市民文化交流館ホール（ヒロロ4階） 【対象】一般市民

	【参加人数】14人
講 師	弘前大学災害・被ばく医療教育センター 三上 直伸 弘前大学医学部附属病院 感染制御センター長 齋藤 紀先 弘前大学医学部附属病院 感染対策担当看護師長 木村 俊幸 弘前大学医学部附属病院 感染管理認定看護師 尾崎 浩美 弘前大学医学部附属病院 感染制御センター看護師 安田 あゆみ
内 容	一般市民に対し、自然災害が顕著に激甚化・頻発化しているなか、日ごろからの備えは とても重要になる。災害時にどのように行動すればよいのか、どういったものを揃えてお けばよいかなどの知識を得て、安全に対応するにはどうすればよいかを防災士と一緒に考 え、マイ・タイムラインについて学習。 自宅や避難場所において、自身や家族が少しでも安心して過ごせるように基本的な感染 対策について、参加者同士で話し合い、学びを深めてもらうことを目的に市民公開講座を 開催。

呼吸器ハンズオンセミナー2024

開催日	令和6年9月1日
主催・共催	【主催】弘前大学大学院医学研究科呼吸器内科学講座、NPO法人北東北呼吸器医療推進機 構 【共催】日本呼吸器学会東北支部
会場・対象 参加人数	【会場】青森県立中央病院研修室 【対象】青森圏内医師、初期研修医、医学部実習学生 【参加人数】45人
講 師	弘前大学大学院医学研究科呼吸器内科学講座
内 容	症例検討および、内視鏡のデモンストレーションを行い、実際にNPPV、スパイロメータ ーなどの機器に触れてもらいながら、臨床医において習得しておきたい呼吸器診療の教 育、普及を行った。

第1回県民公開講座

開催日	令和6年10月20日
主催・共催	【共催】特定非営利活動法人日本高血圧協会、青森県、弘前大学医学部附属病院脳卒中・ 心臓病等総合視線センター、弘前大学大学院医学研究科循環器腎臓内科学講座 【協賛】オムロンヘルスケア株式会社、カゴメ株式会社、大塚食品株式会社、亀田製菓株 式会社 【後援】弘前市、青森県医療ソーシャルワーカー協会、東奥日報社、陸奥新報社
会場・対象 参加人数	【会場】土手町コミュニティーパーク多目的ホール（弘前市） 【対象】青森県民どなたでも 【参加人数】80人
講 師	中南地域県民局 地域健康福祉部 保健総室（弘前保健所） 医師 村上 光太郎 さいとう調剤薬局本町店 管理薬剤師 齋藤 武 弘前大学大学院医学研究科循環器腎臓内科学講座 教授 富田 泰史
内 容	高血圧の予防と治療、服薬管理の重要性に関する情報を広く県民に周知する。

緩和ケア研修会

開催日	令和6年10月26日
主催・共催	【主催】弘前大学医学部附属病院
会場・対象 参加人数	【会場】弘前大学医学部附属病院（外来診療棟5階大会議室） 【対象】青森県内でがん等の診療に携わる医療従事者で、募集定員規定のe-learning 研修の受講を修了した者 【参加人数】17人
講師	弘前大学大学院医学研究科地域侵襲制御医学講座（麻酔科） 准教授 木村 太
内 容	がん等の診療に携わる全ての医療従事者が基本的な緩和ケアについて正しく理解し、緩和ケアに関する知識や技術、態度を修得することを目的とする。

難病医療ネットワーク学会市民公開講座

開催日	令和6年10月26日
主催・共催	【主催】弘前大学医学部脳神経内科 【共催】日本難病医療ネットワーク学会
会場・対象 参加人数	【会場】弘前文化センター 【対象】市民 【参加人数】150人
講師	西日本平郁会 神経内科クリニック 藤田 拓司 滋賀医科大学 脳神経内科 漆谷 真 国際医療福祉大学市川病院 浅川 孝司 福岡県難病医療連絡協議会 原田 幸子
内 容	難病医療の理解を深める。

市民公開講座「乳房再建を学ぼう！@青森」

開催日	令和6年10月27日
主催・共催	【主催】日本形成外科学会 【共催】弘前大学大学院医学研究科形成外科学講座
会場・対象 参加人数	【会場】土手町コミュニティパーク 【対象】乳癌治療、乳房再建に興味のある市民一般 【参加人数】31人
講師	（乳癌治療について） 弘前大学医学部附属病院乳腺外科 岡野 健介 （乳房再建について） 弘前大学医学部附属病院同形成外科 漆舘 聡志 弘前大学大学院医学研究科 腫瘍内科学講座 助教 斎藤 絢介
内 容	一般市民に乳癌治療と乳房再建について分かりやすく解説し、乳房再建に対する理解を深めてもらう。

第2回県民公開講座「脳卒中とともに暮らす」

開催日	令和6年11月3日
-----	-----------

主催・共催	【共催】青森県、弘前大学医学部附属病院脳卒中・心臓病等総合支援センター、青森産業保険総合支援センター、青森地域広域事務組合消防本部、公益社団法人日本脳卒中協会青森県支部
会場・対象 参加人数	【会場】県民福祉プラザ4階 県民ホール 【対象】青森県民どなたでも 【参加人数】300人
講 師	弘前大学大学院医学研究科 脳神経外科学講座 教授 斉藤 敦志 弘前大学医学部附属病院 医療技術部 リハビリテーション部門 療法士長 作業療法士 西村 信哉 独立行政法人労働者健康安全機構青森産業保健総合支援センター 副所長 小林 忠
内 容	脳卒中の予防と治療、リハビリや治療と仕事の両立支援に関する情報を広く県民に周知する。

第26回家庭でできる看護ケア教室

開催日	令和6年11月7日
主催・共催	【主催】弘前大学医学部附属病院 看護部
会場・対象 参加人数	【会場】土手町コミュニケーションプラザA館（1F） 【対象】市民の方 【参加人数】16人
講 師	弘前大学医学部附属病院 感染管理認定看護師 木村 俊幸
内 容	一般市民を対象に、健康増進・介護予防・家庭や地域で誰もが実践できる看護ケアについての知識や技術を提供する。今年度は、感染対策をテーマとした。

世界糖尿病デーIN弘前 市民公開講座

開催日	令和6年11月14日
主催・共催	【主催】弘前大学大学院医学研究科内分泌代謝内科学講座 【共催】日本糖尿病協会東北支部
会場・対象 参加人数	【会場】土手町コミュニケーションプラザA館（1F） 【対象】市民一般、弘前市内・近隣の糖尿病患者及びその家族、医療従事者 【参加人数】60人
講 師	弘前大学内分泌代謝内科学講座 藤田 征弘、田辺 壽太郎 弘前大学医学部附属病院 栄養管理部 藤田 裕恵 ボディスイッチ 佐藤 卓哉、佐藤 優子
内 容	糖尿病に関する正しい知識を知ってもらうために、世界糖尿病デーである11月14日に合わせて、市民向けの公開講座を開催。また、健康相談を行い、体脂肪測定、血糖測定のコーナーを設けて、実際に体験していただいた。

北東北 道南神経筋で筋診断技術セミナー

開催日	令和6年11月16日
主催・共催	【主催】弘前大学医学部脳神経内科、青森県立中央病院脳神経内科 【協力】日本光電株式会社
会場・対象 参加人数	【会場】青森県立中央病院 【対象】医師、検査技師 【参加人数】30人

講 師	青森県立中央病院脳神経内科 馬場 正之 弘前医療福祉大学保健学 尾崎 勇 弘前大学医学部脳神経内科 村上 千恵子 青森病院脳神経内科 木村 珠喜 青森県立中央病院脳神経内科 上野 達哉
内 容	電気生理診断技術をたかめる

令和6年度治療と仕事の両立支援セミナー ～脳卒中や心臓病の治療と仕事の両立を考える～

開催日	令和6年11月23日
主催・共催	【共催】弘前大学医学部附属病院脳卒中・心臓病等総合支援センター、青森産業保健総合支援センター
会場・対象 参加人数	【会場】新町キューブ3階会議室（青森市） 【対象】青森県の事業所、人事労務担当者、産業保健スタッフ、両立支援コーディネーターなど 【参加人数】40人
講 師	独立行政法人 労働者健康安全機構 青森産業保健総合支援センター 所長 中路 重之 弘前大学大学院医学研究科 むつ下北地域医療学講座 講師 石田 祐司 脳卒中と向き合う活動団体OneFeels 代表 佐々木 三之
内 容	治療と仕事の両立支援を行うにあたっては、労働者本人の理解と同意のもと、事業者や医療機関等の関係者が必要に応じて連携することで、労働者本人の治療や業務の状況に応じた、より適切な支援の実施が可能となる。事業者と医療機関、両立支援コーディネーターが円滑な連携を行うため、支援における役割や考え方などについて相互理解を図る。

第17回弘大病院がん診療市民公開講座

開催日	令和6年12月1日
主催・共催	【主催】弘前大学医学部附属病院 【共催】東北広域次世代がんプロ養成プラン
会場・対象 参加人数	【会場】アートホテル弘前シティ エメラルド 【対象】一般市民 【参加人数】130人
講 師	弘前大学医学部附属病院 腫瘍内科学講座 斎藤 絢介 弘前大学医学部附属病院 消化器血液免疫内科学講座 立田 哲也 弘前大学医学部附属病院 放射線腫瘍学講座 廣瀬 勝己 弘前大学医学部附属病院 泌尿器科学講座 畠山 真吾
内 容	弘前大学医学部附属病院のがん診療を広く市民の皆様を知って頂くことを目的に開催し、がんについて専門家がそれぞれの立場からわかりやすく講演する。

第17回青森臨床糖尿病研究会/第59回青森糖尿病週間学術講演会

開催日	令和6年12月15日
主催・共催	【主催】弘前大学大学院医学研究科内分泌代謝内科学講座 【共催】（講演会内のランチョンセミナーの共催）田辺三菱製薬株式会社、日本イーライリリー株式課支社

会場・対象 参加人数	【会場】 弘前大学医学部コミュニケーションセンター 【対象】 青森県内、秋田県（県北）内の糖尿病診療に携わる医療従事者（医師、看護師、栄養士、薬剤師など） 【参加人数】 80人
講 師	シンポジウム 弘前大学内分泌代謝内科学講座 藤田 征弘、松橋 有紀、中村 竜馬 弘前総合医療センター 糖尿病・内分泌内科 松本 敦史 弘前大学医学部附属病院 看護部 北山 紗稀、松山 裕美 弘前大学医学部附属病院 栄養管理部 三上 恵理 弘前大学医学部附属病院 薬剤部 虻川 郁 駅前クリニック 村上 宏 ランチョンセミナー 中通総合病院 栄養部長 兼 糖尿病・内分泌内科統括科長 松田 大輔、他
内 容	糖尿病に関する臨床研究の発表・知識の交換・情報の提供等を行い、糖尿病に関する研究の進歩・知識の普及を図ることを目的として、学術集会を開催。

令和6年度 青森県医療者講演会

各病期における脳卒中患者との関わり～多職種による医療連携～

開催日	令和6年12月17日
主催・共催	【主催】 弘前大学医学部附属病院 脳卒中・心臓病等総合支援センター 【後援】 弘前脳卒中・リハビリテーションセンター、青森新都市病院
会場・対象 参加人数	【会場】 弘前大学医学部附属病院（大会議室）およびZOOMによるオンライン 【対象】 循環器病（脳卒中・心臓病等）患者の医療やケアに関わるスタッフ 【参加人数】 88人
講 師	弘前脳卒中・リハビリテーションセンター 副院長 医師 馬場 佳子 青森新都市病院 医療支援課 係長 医療ソーシャルワーカー 張間 絢子
内 容	回復期・維持期において脳卒中患者が直面する身体的・精神的・社会的な課題点を共有し、スムーズな医療連携の一助とする。

訪問看護師対象学習会

開催日	令和7年2月16日
主催・共催	【主催】 総合患者支援センター
会場・対象 参加人数	【会場】 弘前大学医学部附属病院（大会議室）およびZOOMによるオンライン 【対象】 津軽・西北五地区の訪問看護師 【参加人数】 18人
講 師	弘前大学医学部附属病院 神経科精神科 坂本 由唯
内 容	訪問看護に役立つ情報を発信する目的で年1回開催している。今年度は、精神科領域に焦点を当てる。

公開講座 医療的ケア児支援

開催日	令和7年2月22日
-----	-----------

主催・共催	【主催】弘前大学医学部附属病院 看護部 【協力】青森県小児在宅支援センター、弘前医療的ケア児を支援する会 わ
会場・対象 参加人数	【会場】弘前大学医学部附属病院 多目的棟 多目的室 【対象】医療的ケア児に携わる保健・医療・福祉スタッフ 【参加人数】40人
講 師	青森県小児在宅支援センター 富樫 沙緒里 弘前大学医学部附属病院 小児看護専門看護師 齋藤 身和
内 容	医療的ケア児支援 急変時の対応 ～医療的ケア児への支援について保健・医療・福祉関係者とのつながりを深めましょう～

第 33 回 弘前大学医学部附属病院緩和ケア公開講座

開催日	令和 7 年 3 月 13 日
主催・共催	【主催】弘前大学医学部附属病院 腫瘍センター
会場・対象 参加人数	【会場】弘前大学医学部附属病院（外来診療棟 5 階大会議室） 【対象】院内教職員、医療従事者、福祉関係者 【参加人数】130人
講 師	弘前大学医学部附属病院 緩和ケア認定看護師 佐藤 千紗斗 弘前大学医学部附属病院 慢性心不全看護認定看護師 佐藤 みな
内 容	がん等の診療に携わる医療従事者が緩和ケアに関する知識や技術を習得することを目的とする。

(10) 被ばく医療総合研究所

災害支援医療従事者養成講座（履修証明プログラム）

開催回数	32回
主催・共催	【主催】弘前大学災害・被ばく医療教育センター
会場・対象 参加人数	【対象】県内の医療機関、原子力関連機関所属者 等 【参加人数】1,056人
講 師	弘前大学大学院地域共創科学研究科 教授 片岡 俊一 弘前大学大学院理工学研究科 准教授 石田 祐宣 弘前大学農学生命科学部 講師 鄒 青穎 弘前大学大学院理工学研究科 講師 佐々木 実 弘前大学大学院理工学研究科 教授 鳥飼 宏之 弘前大学災害・被ばく医療教育センター 助教 辻口 貴清 弘前大学災害・被ばく医療教育センター 教授 伊藤 勝博 青森地方気象台防災管理官 佐々木 幸夫 弘前大学大学院教育学研究科 教授 小岩 直人 青森県庁危機管理局 総括主幹 屋崎 雪絵 弘前大学災害・被ばく医療教育センター 技術補佐員 三上 直伸 国立病院機構本部DMA T事務局福島復興支援室 室長補佐 小早川 義貴 青森県立中央病院 災害医療管理監 小笠原 賢 東北大学病院 講師 藤田 基生 弘前大学大学院保健学研究科 准教授 漆坂 真弓

	弘前大学大学院医学研究科 教授 青森県庁医療薬務課地域医療確保グループ 主査 弘前医療福祉大学 准教授 青森県立保健大学 講師 愛知医科大学 教授 国立病院機構本部DMA T事務局 主査 秋田大学医学部附属病院高度救命救急センター 青森県立中央病院薬剤部 主査 弘前大学医学部附属病院 講師 弘前大学医学部附属病院医事課 主任 弘前大学医学部附属病院 総務課 青森新都市病院 看護部長 青森新都市病院リハビリテーション科 主任 青森新都市病院 看護師長 むつ総合病院 救急検査看護師長	花田 裕之 山崎 智哉 若松 淳 千葉 武揚 津田 雅庸 千島 佳也子 山平 大介 雪田 大樹 奈良岡 征都 花田 昌吾 北村 隆雄 角田 つね 小舘 秀平 片山 香織 中島 さおり
内 容	本プログラムは、県内の医療機関、原子力関連機関所属者などを対象に、今後予想される日本海溝・千島海溝を震源とする巨大地震、原子力災害を含めた各種災害発生時に医療従事者の支援が可能な人材を育成することを目的として開講。	

令和6年度 弘前大学浪江町復興支援活動成果報告会・交流会

開催日	令和6年10月5日	
主催・共催	【主催】弘前大学被ばく医療総合研究所	
会場・対象 参加人数	【会場】道の駅なみえ 【対象】福島県浪江町民、近隣市町村住民等 【参加人数】73人	
講 師	弘前大学被ばく医療総合研究所 教授（所長） 弘前大学被ばく医療総合研究所 教授 弘前大学被ばく医療総合研究所 教授 弘前大学医学部附属病院高度救命救急センター センター長 弘前大学被ばく医療総合研究所 准教授 弘前大学大学院保健学研究科大学院生 弘前大学教育学部学部学生	床次 眞司 三浦 富智 赤田 尚史 花田 裕之 大森 康孝 中山 亮、田岡 愛弥 木村 壮志
内 容	平成23年9月29日福島県浪江町と連携に関する協定書を締結し、本学では浪江町と協力しながら、町民の健康相談、環境放射線モニタリングなど様々な支援活動を継続して取り組んでいる。その支援活動の成果について紹介。	

陸上自衛隊弘前駐屯地 放射線防護研修

開催日	令和6年12月2日	
主催・共催	【主催】弘前大学被ばく医療総合研究所、弘前大学被ばく医療連携推進機構	
会場・対象 参加人数	【会場】弘前大学創立50周年記念会館岩木ホール 【対象】陸上自衛隊弘前駐屯地の自衛隊員 【参加人数】30人	
講 師	弘前大学被ばく医療総合研究所 教授（所長） 弘前大学被ばく医療総合研究所 教授 弘前大学被ばく医療総合研究所 特任助教	床次 眞司 三浦 富智 菊池 和貴

	弘前大学災害・被ばく医療教育センター 助教 辻口 貴清 弘前大学保健学研究科 教授 細田 正洋 弘前大学被ばく医療総合研究所 教授 田副 博文 弘前大学被ばく医療総合研究所 准教授 大森 康孝 弘前大学被ばく医療総合研究所 助教 藤嶋 洋平 弘前大学被ばく医療総合研究所 助教 Anderson Donovan
内 容	災害時に活動する自衛隊員が原子力災害等に備え放射線防護に関する研修を受講することにより、万が一、原子力 災害等が発生した場合に適切に対応できる知識と技術を身につけることを目的として、講義と演習による研修を実施。

第3回災害医療セミナー

開催日	令和6年11月6日
主催・共催	【主催】弘前大学被ばく医療連携推進機構災害・被ばく医療教育センター
会場・対象 参加人数	【会場】弘前大学 医学部コミュニケーションセンター大会議室 【対象】災害支援医療従事者養成講座受講者等 【参加人数】45人
講 師	愛知医科大学災害医療研究センター 教授 津田 雅庸 国立病院機構本部厚生労働省DMAT事務局 主査 千島 佳也子
内 容	外部講師を招聘し「南海トラフ地震への備え」、「社会福祉施設での災害対応」について講演を実施。

第4回災害医療セミナー

開催日	令和7年3月27日
主催・共催	【主催】弘前大学被ばく医療連携推進機構災害・被ばく医療教育センター
会場・対象 参加人数	【会場】弘前大学大学院保健学研究科 大学院講義室1 【対象】弘前大学学生、弘前大学教職員、県内医療従事者、消防職員、県庁職員等 【参加人数】50人
講 師	昭和大学江東豊洲病院 脳血管センター長 池田 尚人 東邦大学医療センター大森病院 救命救急センター長 本田 満 富山大学 名誉教授 奥寺 敬
内 容	外部講師を招聘し「レジャーやイベント会場の救急室勤務で知っておくと良いかもしれない特殊なお話」、「東京国際空港航空機事故とその後の対応」、「サリン事件から30年を経て～国際標準研修エマルゴの紹介～」について講演を実施。

(11) 地域戦略研究所

弘大食料研サイエンスカフェ

開催日	①令和6年7月21日 ②令和7年3月15日
主催・共催	【主催】弘前大学地域戦略研究所食料科学研究部門
会場・対象 参加人数	【会場】café & space ivy 【対象】一般市民 【参加人数】13人

講 師	①弘前大学人文社会科学研究科 教授 日比野 愛子 ②東北大学大学院生命科学研究科 准教授 大坪 嘉行
内 容	地域貢献の一環として、食の研究の話題を中心に科学を一般市民に分かりやすく伝え、科学に親しんでもらうことを目的として実施。

(12) 国際連携本部

外国人留学生から直接聞ける世界のおはなし

開催日	①前期 令和6年7月6日 ②後期 令和7年1月25日
主催・共催	【主催】弘前市教育委員会（弘前市立中央公民館） 【共催】弘前大学国際連携本部
会場・対象 参加人数	【会場】弘前文化センター 【対象】弘前市在住の方または市内に通学、通勤されている方 【参加人数】20人（前期 11人、後期 9人）
講 師	弘前大学で日本語を学ぶ外国人留学生
内 容	弘前大学で日本語を学ぶ外国人留学生が、母国について日本語で紹介することで、学習成果を発表する場となると同時に、外国人留学生と市民との交流の場となり、市民が外国の文化を知る機会を創出している。

(13) 地域創生本部

弘大じょっぱり起業家塾2024

開催日	I. 基礎コース 令和6年6月20日、7月18日、8月22日、9月5日、9月19日 II. 実践コース 令和5年10月3日、10月17日、10月31日、11月7日、11月21日、12月12日
主催・共催	【主催】弘前大学地域創生本部 【後援】青森経済同友会、弘前商工会議所、青森県中小企業団体中央会、（一社）クランビオニ・津軽
会場・対象 参加人数	【会場】弘前大学創立50周年記念会館 【対象】大学生、教職員、自治体職員高校生、社会人 【参加人数】200人
講 師	I. 基礎コース (株)TOMUSHI 代表取締役CEO 石田 陽佑 (株)日本政策金融公庫 融資課長 山崎 雄 AOMORI STARTUP CENTER 植松 宏真 J R東日本スタートアップ(株) 代表取締役社長 柴田 裕 (株)スプラウトジャパン 代表取締役 山内 和彦 II. 実践コース 弘前大学人文社会科学部 教授 森 樹男 弘前大学農学生命科学部 教授 石塚 哉史
内 容	ビジネスモデルの組み立て方や地域資源を活かした経営戦略など、新たなビジネスにつながる学びを提供することで、起業家の育成や若者の雇用の受け皿を増加させ今後さらなる起業家の育成や地域の振興を促進することを目的として実施。

令和6年度第1回研究体験事業

開催日	令和6年8月24日
主催・共催	【主催】弘前大学地域創生本部ボランティアセンター
会場・対象 参加人数	【会場】弘前大学文京キャンパス 【対象】小学生 【参加人数】17人
講師	弘前大学農学生命科学部 准教授 森井 悠太 弘前大学人文社会科学部 教授 上條 信彦
内 容	学生ボランティアの引率のもと大学の研究体験を実施するとともに、学生ボランティアと児童が共に昼食をとり交流を行うことで、普段感じることのない大学の雰囲気に触れることや最先端の研究室の様子を知り、勉学への意欲や知的好奇心を高めることを目的に当該事業を実施。

令和6年度第1回市民ボランティア講座

開催日	令和6年10月9日
主催・共催	【共催】一般社団法人男女共同参画地域みらいねっと、弘前大学地域創生本部ボランティアセンター
会場・対象 参加人数	【会場】弘前大学人文社会科学部4階多目的ホール 【対象】市民 【参加人数】29人
講師	NPO法人Matsudo子どもの未来へwith us 代表理事 高橋 亮 NPO法人Matsudo子どもの未来へwith us 理事 有馬 房江
内 容	NPO法人「Matsudo子どもの未来へwith us」の代表理事である高橋 亮氏をお招きし、地域内のすべての小学校区に子どもの居場所を作るための支援活動について伺う。また、活動を通じて学んだ、近年増加している生活困窮をはじめとする様々な問題を抱える家庭の実情や、そうした家庭が地域社会から孤立することで困難が増すという状況についても触れる。

令和6年度第2回市民ボランティア講座

開催日	令和6年11月24日
主催・共催	【主催】弘前大学地域創生本部ボランティアセンター
会場・対象 参加人数	【会場】弘前大学大学会館3階大集会室 【対象】市民 【参加人数】38人
講師	一般社団法人男女共同参画地域みらいねっと代表理事 小山内 世喜子
内 容	ジェンダー視点を取り入れた避難所運営訓練を通して、次のことについて理解を深める。 ① 参加者が「人権や命の大切さ」、「考える力」、「判断し行動する力」、「生きぬく力」を身につける。 ② 地域に住む若者が防災教育に取り組むことで、地域防災力の向上につなげると共に地域への関心や愛着心が生まれ、地域コミュニティの形成につなげる。 ③ 性別にとらわれず、一人ひとりが能力を発揮でき、認め合うことの必要性に気づく。 ④ 災害時、誰もが取り残されない避難所について理解する。

令和6年度弘前大学地域創生本部ボランティアセンター活動報告会

開催日	令和7年1月23日
主催・共催	【主催】弘前大学地域創生本部ボランティアセンター
会場・対象 参加人数	【会場】弘前大学学生会館3階大集会室 【対象】市民 【参加人数】25人
講師	福知山公立大学 地域経営学部 准教授 大門 大朗
内 容	令和6年に地震や豪雨による被害に見舞われた能登半島において支援活動を行っている福知山公立大学の大門氏から、被害状況や現状、被災地のニーズについてご報告をいただくほか、当センターの今年度の活動を振り返りながら今後に向けた課題および方策について意見交換を行い、来年度以降のセンター運営を検討する。同時に、弘前市民のボランティア活動への理解を深め、ボランティア活動参加を推進していくことを目指す。

令和6年度第2回研究体験事業

開催日	令和7年2月15日
主催・共催	【主催】弘前大学地域創生本部ボランティアセンター
会場・対象 参加人数	【会場】弘前大学本町キャンパス 【対象】小学生 【参加人数】14人
講師	弘前大学男女共同参画推進室 助教 山下 梓 弘前大学保健学研究科 助教 太田 一輝
内 容	学生ボランティアの引率のもと大学の研究体験を実施するとともに、学生ボランティアと児童が共に昼食をとり交流を行うことで、普段感じることのない大学の雰囲気に触れることや最先端の研究室の様子を知り、勉学への意欲や知的好奇心を高めることを目的に当該事業を実施。

むつサテライトキャンパス公開講座「食育健康講座」

開催日	①令和6年8月9日 ②令和6年8月23日 ③令和6年9月27日 ④令和6年10月18日
主催・共催	【主催】むつサテライトキャンパス運営委員会
会場・対象 参加人数	【会場】①むつ来さまい館Bホール ②下北文化会館大集会室 ③海老川コミュニティセンター集会室 ④むつ来さまい館Bホール 【対象】むつ市民及び周辺市町村民 【参加人数】73人
講師	①弘前大学農学生命科学部 准教授 前多 隼人 料理研究家 坂本 謙二 ②弘前大学 名誉教授 加藤 陽治 料理研究家 坂本 謙二 ③弘前大学農学生命科学部 准教授 前多 隼人 料理研究家 坂本 謙二 ④弘前大学 名誉教授 加藤 陽治 料理研究家 坂本 謙二

内 容	①「夏野菜の代表ゴーヤとズッキーニで暑い夏を乗り切ろう」 ②「青森県のカシス生産量はわが国で一番です！強力な抗酸化作用で美容と健康を維持しましょう！」 ③「酸化ストレスと血圧に対するナスの機能成分の効果！」 ④「豊富なβカロテン、ビタミンEで老化防止を！粘膜や皮膚を強化して厳しい冬に備えよう！」
-----	---

むつサテライトキャンパス公開講座「ジオパーク講座」

開催日	①令和6年7月28日（中止） ②令和6年9月22日
主催・共催	【主催】むつサテライトキャンパス運営委員会
会場・対象 参加人数	【会場】下北地域 【対象】むつ市民及び周辺市町村民 【参加人数】16人
講 師	弘前大学理工学研究科 講師 根本 直樹
内 容	令和4年9月に放送されたブラタモリのロケ地をバスで巡る。

(14) 教育推進機構

数理・データサイエンス教育センター公開講座

データサイエンスサマースクール 2024～AI と仲良く遊ぶ～

開催日	令和5年8月3日
主催・共催	【主催】弘前大学教育推進機構数理・データサイエンス教育センター
会場・対象 参加人数	【会場】弘前大学総合教育棟305講義室 【対象】高校生、中学校、高校の数学・情報担当教員及びデータサイエンス・AIに興味のある一般市民 【参加人数】18人
講 師	数理・データサイエンス教育センター センター長 守 真太郎 弘前大学教育推進機構 助教 徐 昺哲 弘前大学教育推進機構 助教 増本 広和
内 容	AIの基礎知識から応用について、実際に生成AIツールを使用し、AIの可能性と魅力についての学びの場を提供することを目的とする。

高大連携事業 イングリッシュ・ラウンジ オンラインセミナー オープニングイベント

開催日	①令和6年4月19日 ②令和6年10月4日
主催・共催	【主催】弘前大学教養教育開発実践センター
会場・対象 参加人数	【会場】オンライン 【対象】青森高校、青森南高校、八戸高校、弘前南高校の生徒 【参加人数】50人
講 師	弘前大学教育推進機構 講師 ソロモン・ジョシュア 弘前大学教育推進機構 助教 ヤグノ・ライク

内 容	令和3年度から引き続き、県内高等学校の協定校の一部に公開予定のイングリッシュ・ラウンジのセミナーを高校生に親しみやすく参加してもらうために開いたオープニングイベントである。令和4年度前期のセミナーの一部、“Easy Conversation Practice/留学生と一緒に簡単な会話練習”の模擬授業をライク・ヤグノ助教が中心となり、留学生とともにZoomで配信を実施。
-----	---

弘前大学イングリッシュ・ラウンジ・セミナー（前期）

開催回数	56回
主催・共催	【主催】弘前大学教養教育開発実践センター
会場・対象 参加人数	【会場】オンライン 【対象】青森高校、青森南高校、八戸高校の生徒 【参加人数】135人
講 師	弘前大学教育推進機構 准教授 バードセル・ブライアン 弘前大学教育推進機構 准講師 ソロモン・ジョシュア 弘前大学教育推進機構 助教 ヤグノ・ライク
内 容	English Loungeで提供するセミナー、火曜日Communication in Global English、水曜日Practical Translation Skills、木曜日English Communication、金曜日Studying and Living Abroad をZoomにより公開。

高校生のための弘前大学イングリッシュ・ラウンジ 英語スキル獲得ワークショップ

開催日	令和6年5月18日
主催・共催	【主催】弘前大学教養教育開発実践センター
会場・対象 参加人数	【会場】オンライン 【対象】青森高校、青森南高校、八戸高校の生徒 【参加人数】3人
講 師	弘前大学教育推進機構 講師 ソロモン・ジョシュア 弘前大学教育推進機構 助教 ヤグノ・ライク 弘前大学教育推進機構 助教 片桐 早苗
内 容	高校生が英語リスニング能力を活かしながら、大学生に必要なノートテイキング技能を演習形式で学び、それをもとに短い討論を実施。外国文化についての講義を聞きながらノートテイキングの方法を実践的に学習する事前オンデマンド学習と、オンライン同時双方向学習において予習で取ったメモを踏まえてグループで協力しながら議論を準備し、Micro debateを実施。

小中学生のための英語教室 弘大の多国籍教員と

開催日	令和6年8月17日
主催・共催	【主催】弘前大学教養教育開発実践センター
会場・対象 参加人数	【会場】オンライン 【対象】青森県内の弘前大学との協定校の高等学校の生徒（担当教員の推薦必要） 【参加人数】6人
講 師	弘前大学教育推進機構 講師 ソロモン・ジョシュア 弘前大学教育推進機構 助教 ヤグノ・ライク

内 容	英語を使って楽しく活動しながら、主体的に英語を話すことを体験しよう。 小学生（午前の部）：自分の身近な本、ものを英語で紹介できるように練習しよう。 中学生（午後の部）：英語でのインタビュー方法を練習し、外国出身の人と交流することにより、外国文化について学ぼう。
-----	--

第5回 弘前大学イングリッシュ・ラウンジ～市民のための英語講座

開催日	①令和6年11月22日 ②令和6年12月6日
主催・共催	【主催】弘前大学教養教育開発実践センター
会場・対象 参加人数	【会場】弘前大学総合教育棟2階 イングリッシュ・ラウンジ セミナー室 【対象】英語や海外文化について興味のある方 【参加人数】31人
講 師	弘前大学教育推進機構 講師 ソロモン・ジョシュア 弘前大学教育推進機構 助教 ヤグノ・ライク 弘前大学教育推進機構 助教 片桐 早苗
内 容	英語を使いながらアメリカとドイツの買い物文化について学び、自分の身近な文化について振り返る、インタラクティブな講座。英語レベルによって適切な教材を使い、読む・話す指導を行い、初心者の方も可能とした。（どちらかみの参加も可能）

弘前大学イングリッシュ・ラウンジ・セミナー（後期）

開催回数	56回
主催・共催	【主催】弘前大学教養教育開発実践センター
会場・対象 参加人数	【会場】オンライン 【対象】青森高校、青森南高校、八戸高校の生徒 【参加人数】25人
講 師	弘前大学教育推進機構 准教授 バードセル・ブライアン 弘前大学教育推進機構 講師 ソロモン・ジョシュア 弘前大学教育推進機構 助教 ヤグノ・ライク
内 容	English Loungeで提供するセミナー、火曜日Learning English with News、水曜日Writing Tutor、木曜日Understanding Research in the Social Science、金曜日Europe Pop Culture をZoomにより公開。

(15) 研究・イノベーション推進機構

けっぱれ！高校生起業家塾 2024

開催日	令和6年11月24日
主催・共催	【主催】弘前大学
会場・対象 参加人数	【会場】ねぶたの家 ワ・ラッセ 交流学習室3 【対象】高校生（今後、起業を考えている方や起業で地域を活性化したい方） 【参加人数】2人
講 師	八戸学院大学地域経営部地域経営学科 講師 川守田 景子 創業コーディネーター 植松 宏真

	アワイ合同会社 代表 堀江 洋生
内 容	高校生が起業に必要な基礎知識やマインドセットを身につけ、アイデアの作り方やビジネスプランの組み立て方、プレゼンテーションの方法など起業について学びと体験を提供するプログラム。

弘前大学令和6年度第3回スタートアップサロン

開催日	令和6年11月18日、25日
主催・共催	【主催】弘前大学研究・イノベーション推進機構 【共催】公益財団法人21あおもり産業総合支援センター 【後援】あおもり創生パートナーズ株式会社
会場・対象 参加人数	【会場】弘前大学総合教育棟3階306号室 【対象】弘前大学教職員・学生、青森県内の大学/高専の教職員・学生、ひろさき産学官連携フォーラム会員、イノベーションネットワークあおもりメンバー、MASP参画大学の教職員・学生 【参加人数】171人
講 師	本田技研工業株式会社知的財産・法務統括部 仲山 修司
内 容	スタートアップ創出のための起業活動支援プログラムの一環として、企業における新事業や新サービスのアイデア創出の仕組みを学び、実践することで、起業家教育の醸成並びに教員・学生等が起業を目指す動機付けとすることを目的としたプログラム。

令和6年度弘前大学知財塾

開催日	令和6年12月3日
主催・共催	【主催】弘前大学 研究・イノベーション推進機構 【共催】弘前大学 健康未来イノベーション研究機構、ひろさき産学官連携フォーラム、大学コンソーシアム学都ひろさき
会場・対象 参加人数	【会場】弘前大学（オンライン） 【対象】弘前大学教職員、大学生、大学院生、ひろさき産学官連携フォーラム会員、大学コンソーシアム学都ひろさき加盟大学教職員、MASP参画大学の教職員・学生 【参加人数】24人
講 師	坂本国際特許商標事務所 所長 弁理士 坂本 智弘
内 容	知財に対するリテラシー向上、研究活動における知財への意識啓もうを目的として「スタートアップと知財活動」をテーマに開催。

第3回弘前大学先輩起業家交流会及び個別起業相談会

開催日	令和7年2月6日
主催・共催	【主催】弘前大学 研究・イノベーション推進機構 【共催】公益財団法人21あおもり産業総合支援センター、八戸工業高等専門学校 【後援】あおもり創生パートナーズ株式会社、ひろさき産学官連携フォーラム
会場・対象 参加人数	【会場】弘前大学文京キャンパスオープンイノベーションプラザ（ハイブリッド） 【対象】弘前大学教職員・学生、青森県内の大学/高専の教職員・学生、起業に関心のある方、ひろさき産学官連携フォーラム会員、イノベーションネットワークあおもりメンバー、MASP参画大学の教職員・学生 【参加人数】171人
講 師	株式会社天地人 代表取締役 櫻庭 康人

内 容	スタートアップ創出のための起業活動支援プログラムの一環として、弘前市出身の先輩起業家を招き、スタートアップを志した経緯や苦労した点、良かった点などについて講演頂くとともに、交流を図ることを目的として開催。交流会前には希望者による個別起業相談会も開催。
-----	---

弘前大学令和6年度第4回スタートアップサロン

開催日	令和7年2月7日
主催・共催	【主催】弘前大学 研究・イノベーション推進機構 【共催】公益財団法人21あおもり産業総合支援センター 【後援】あおもり創生パートナーズ株式会社
会場・対象 参加人数	【会場】弘前大学創立50周年記念会館みちのくホール（ハイブリッド） 【対象】弘前大学教職員・学生、青森県内の大学、高専の教職員・学生、ひろさき産学官連携フォーラム会員、イノベーションネットワークあおもりメンバー、MASP参画大学の教職員・学生 【参加人数】83人
講 師	株式会社ソフトクリエイティブホールディングス 上席執行役員 吉川 智雄
内 容	スタートアップ創出のための起業活動支援プログラムの一環として、企業におけるアントレプレナーシップ（起業家精神）の必要性・重要性について紹介していただくことにより、起業家教育の醸成並びに教員・学生等が企業を目指す動機付けとすることも目的としたプログラム。

(16) 健康未来イノベーション研究機構

弘前大学COI-NEXT Well-being イノベーションフォーラム2024 (WEB併用)

開催日	令和6年9月20日
主催・共催	【主催】弘前大学、青森県、弘前市 【後援】文部科学省、(国研) 科学技術振興機構 (JST)
会場・対象 参加人数	【会場】一橋大学一橋講堂（東京都） 一般市民・学生・大学・企業・研究機関等 【参加人数】2,500人
講 師	・弘前大学長 福田 眞作 ・青森県知事 宮下 宗一郎 ・弘前市長 櫻田 宏 ・文部科学省 科学技術政策局長 井上 諭一 ・COI-NEXT 共創分野・地域共創分野第1領域プログラムオフィサー 澤谷 由里子 ・弘前大学 COI-NEXT拠点長 (PL)/弘前大学 学長特別補佐/健康未来イノベーション研究機構長・教授 村下 公一 ・COI-NEXT共創の場形成推進会議顧問 (株)三菱総合研究所理事長/プラチナ構想ネットワーク会長/東京大学第28代総長 小宮山 宏 ・内閣官房政策参与 (グローバル・スタートアップ・キャンパス構想推進室) /前 内閣府 科学技術・イノベーション推進事務局長 松尾 泰樹 ・第一三共ヘルスケア株式会社 代表取締役社長 内田 高広 ・日本電気株式会社 Coporate SVP 兼ヘルスケア・ライフサイエンス事業部門長 北瀬 聖光 ・マツダ株式会社 執行役員 中井 英二 ・青森県弘前市 副市長/弘前大学COI-NEXT PL補佐 田中 泰宏 ・弘前大学大学院医学研究科附属健康・医療データサイエンス研究センター長 教授 玉田 嘉紀

	・京都大学大学院医学研究科 特定助教/京都大学サテライト拠点長代理（サイバー戦略TL代理） 内野 詠一郎 ・東京大学 医科学研究所 副所長・教授/東京大学サテライト拠点長（サイバー戦略TSL） 井元 清哉 ・京都府立医科大学 副学長・大学院医学研究科 教授/京都府立サテライト拠点長 的場 聖明 ・九州大学大学院医学研究院 教授 二宮 利治 ・DeSCヘルスケア株式会社代表取締役社長/弘前大学COI-NEXT副拠点長（SPL）・社会実装統括（IL） 瀬川 翔 ・花王株式会社 研究開発部門 特命エキスパート/弘前大学COI-NEXT社会実装副統括（SIL） 桂木 能久 ・東京大学大学院薬学系研究科 特任准教授 五十嵐 中 ・京都府立医科大学大学院医学研究科 教授 成本 迅 ・株式会社資生堂シーズ開発センター 研究員 森戸 勇介 ・花王株式会社 ヒューマンヘルスケア研究所 主席研究員 杉浦 陽子 ・サントリーウェルネス株式会社 生命科学研究所 シニアスペシャリスト 櫛木 智裕 ・日本コプ共済生活協同組合連合会 総合マネジメント本部 組合員参加推進部 部長 堀口 幸子 ・明治安田生命保険相互会社 企画部ヘルスケア事業企画室 主任スタッフ 瀬領 大輔 ・クラシエ株式会社 R&D本部 ウェルビーイングリサーチセンター 主任研究員 渡部 晋平 ・株式会社WALC MedTech・ML0ps グループ グループ長 梁川 祥吾 ・株式会社宮田総研 代表取締役社長/株式会社ヘルスケアイノベーション代表取締役社長 宮田 満 ・青森県立中央病院・院長/弘前大学COI-NEXT 副拠点長（SPL）・研究統括（RL）/大学院医学研究科 特任教授 廣田 和美 ・弘前大学COI-NEXT副拠点長（SPL）・研究統括（RL）/大学院医学研究科長・教授 石橋 恭之 ・青森県医師会健やか力推進センター長/弘前大学COI-NEXT拠点・最高顧問（弘前大学特別顧問） 中路 重之 ・青森県弘前市 企画部企画課 参事 櫻庭 智之 ・青森県 経済産業部 産業イノベーション推進課 課長/弘前大学COI-NEXT PL補佐 栗島 宜郎 ・株式会社資生堂 シーズ開発センター ヒューマンデータG グループマネージャー 岡村 智恵子 ・カゴメ株式会社 事業企画本部 健康事業部 シニアスペシャリスト 菅沼 大行 ・雪印メグミルク株式会社 研究開発部 副部長 今井 宏 ・ICI株式会社 代表取締役副社長 工藤 憲一 ・弘前大学 理事（研究担当） 副学長 教授 曾我 亨
内 容	新たに健康を基軸とした「経済発展モデル」と「全世代アプローチ」でWell-being な地域共創社会の実現をめざす。これまでのCOI での活動成果を基盤にしつつ健康(QOL) の本質的課題解決へ向けてさらに力強く挑戦する。STI for SDGs の理念のもと、地域から世界の健康づくり(SDGs) への貢献をめざす、新たな健康未来イノベーション戦略の全体像を披露するとともに、未来の地域社会モデル、ヘルスケア産業創出戦略等について第一線の産学官金民関係者が一大集結し、熱く議論する。

弘前大学COI-NEXT Well-being イノベーションサミット2025(WEB併用)

開催日	令和7年2月7日
主催・共催	【主催】弘前大学、青森県、弘前市 【共催】青森県医師会、健やか力推進センター、ひろさき産学官連携フォーラム

	【後援】 文部科学省、(国研) 科学技術振興機構 (JST)
会場・対象 参加人数	【会場】 アートホテル弘前シティ プレミアホール 【対象】 一般市民・学生・大学・企業・研究機関等 【参加人数】 2,700人
講 師	・弘前大学長 福田 眞作 ・青森県知事 宮下 宗一郎 ・弘前市長 櫻田 宏 ・文部科学省 科学技術・学術政策局 科学技術・学術総括官 先崎 卓歩 ・内閣官房政策参与 (グローバル・スタートアップ・キャンパス構想推進室) /前 内閣府 科学技術・イノベーション推進事務局長 松尾 泰樹 ・COI-NEXT 共創分野・地域共創分野 第1領域副プログラムオフィサー 吉田 輝彦 ・弘前大学COI-NEXT拠点長 (PL)/弘前大学 学長特別補佐/健康未来イノベーション研究機構長 教授 村下 公一 ・料理研究家 浜内 千波 ・味の素株式会社 執行役常務 バイオ&ファインケミカル事業本部副事業本部長 兼 バイオ・ファイン研究所長 高柳 大 ・サントリーウエルネス株式会社 生命科学研究所 部長 出雲 貴幸 ・株式会社ミルテル 代表取締役社長 加藤 俊也 ・青森県弘前市 副市長/弘前大学COI-NEXT PL補佐 田中 泰宏 ・青森県青森市 保健部 青森市保健所 健康づくり推進課 課長 種市 靖子 ・株式会社シバタ医理科 代表取締役社長 尾形 慎哉 ・青森県むつ市教育委員会 学校教育課 兼 地域クラブ企画推進課 指導主事 木村 浩明 ・セントラルスポーツ株式会社 経営企画室 シニアマネージャー 引地 雄介 ・弘前大学生協学生委員会 (弘前大学 人文社会科学部2年) 山名 来実 ・弘前大学大学院保健学研究科 教授/株式会社弘前子ども発達支援センター ひろこは 代表取締役 斉藤 まなぶ ・東京大学大学院薬学系研究科 特任准教授 五十嵐 中 ・DeSCヘルスケア株式会社 代表取締役社長/弘前大学COI-NEXT副拠点長・社会実装統括 (IL) 瀬川 翔 ・花王株式会社 研究開発部門 特命エキスパート/弘前大学COI-NEXT 社会実装副統括 (SIL) 桂木 能久 ・弘前大学大学院医学研究科附属健康・医療データサイエンス研究センター長 教授 玉田 嘉紀 ・京都大学大学院医学研究科 特定准教授/京都大学サテライト拠点長代理 (サイバー戦略 TL代理) 内野 詠一郎 ・大阪大学大学院薬学研究科 特任教授/LINC デジタルヘルス&メディシンWG代表 伊藤 眞里 ・名桜大学 学長 砂川 昌範 ・和歌山県立医科大学 保健看護学部 教授 宮井 信行 ・株式会社資生堂 未来開発研究所 研究員 森戸 勇介 ・花王株式会社 ヒューマンヘルスケア研究所 研究員 宮崎 匡史 ・カゴメ株式会社 食健康研究所 所長 鈴木 重徳 ・株式会社テクノスルガ・ラボ 技術部 技術・製品開発課 課長 久田 貴義 ・株式会社バリューHR 健康経営&データヘルス推進室 分析チーム・マネージャー データサイエンティスト 坂田 圭史郎 ・青森県生活協同組合連合会 専務理事 三浦 雅子 ・みやびベンチャーズ株式会社 代表取締役社長 井上 恒一 ・マルマンコンピュータサービス株式会社 企画・営業部一般・医療営業課 シニアマネージャー 宮本 真弓 ・東北化学薬品株式会社 アカデミア・ライフサイエンス営業グループ 部長 小野 寿雄

	・株式会社宮田総研 代表取締役社長/株式会社ヘルスケアイノベーション 代表取締役社長 宮田 満 ・弘前大学COI-NEXT副拠点長 (SPL)・研究統括 (RL)/大学院医学研究科長・教授 石橋 恭之 ・青森県立中央病院・院長/弘前大学COI-NEXT副拠点長 (SPL)・研究統括 (RL)/大学院医学研究科 特任教授 廣田 和美 ・青森県医師会健やか力推進センター長/弘前大学COI-NEXT拠点・最高顧問 (弘前大学特別顧問) 中路 重之 ・青森県 経済産業部 産業イノベーション推進課 課長/弘前大学COI-NEXT PL補佐 栗島 宜郎 ・青森県弘前市 企画部 部長 外川 吉彦 ・弘前保健所管内食生活改善推進員 連絡協議会 会長/青森県食生活改善推進員 連絡協議会 副会長 斎藤 明子 ・青森県弘前市岩木第一地区老人クラブ連合会 会長 福嶋 正治 ・日本コープ共済生活協同組合連合会 総合マネジメント本部 組合員参加推進部 部長 堀口 幸子 ・花王株式会社 ヒューマンヘルスケア研究所 主席研究員 杉浦 陽子 ・カゴメ株式会社 事業企画本部 健康事業部 シニアスペシャリスト 菅沼 大行 ・ハウス食品グループ本社株式会社 研究開発本部 グループ長 田口 大夢
内 容	健康を基軸とした「経済発展モデル」と「全世代アプローチ」でwell-beingな地域共創社会の実現をめざす。これまでのCOI活動成果を基盤に、健康(QOL) の本質的課題解決へ向けてさらに力強く挑戦し、STI for SDGs の理念のもと、地域から世界の健康づくり(SDGs) への貢献をめざす。新健康未来イノベーション戦略の実現に向け、未来の地域社会モデル、ヘルスケア産業創出等について第一線の産学官金民関係者が一大集結し、熱く議論する。

(17) 男女共同参画推進室

男女共同参画トップセミナー

開催日	令和6年12月17日
主催・共催	【主催】弘前大学男女共同参画推進室
会場・対象 参加人数	【会場】弘前大学創立50周年記念会館岩木ホール、オンライン (Zoom) 【対象】弘前大学、北東北ダイバーシティ研究環境推進コミッティ、北東北国立3大学連携推進会議連携協議会、あおりダイバーシティ研究環境推進ネットワーク、テーマに興味のある他大学や市民 【参加人数】60人
講 師	ファーマメント代表、国際基督教大学ジェンダー研究センター顧問 国際基督教大学ジェンダー研究センター創設者 元・国際基督教大学 教授 田中 かず子
内 容	「基礎から学ぶ 性の多様性と大学の対応～パイオニア・国際基督教大学での実践を素材として～」

(18) 大学コンソーシアム学都ひろさき

大学コンソーシアム学都ひろさき 5 大学合同シンポジウム

開催日	令和6年12月22日
-----	------------

主催・共催	【主催】 大学コンソーシアム学都ひろさき 【共催】 弘前市
会場・対象 参加人数	【会場】 土手町コミュニケーションプラザ 【対象】 学生、市民、大学関係者、行政関係者等 【参加人数】 138人
講 師	弘前大学大学院地域共創科学研究科長 片岡 俊一
内 容	「今後の地震防災」

V. 各学部・研究科等の地域連携・地域貢献に関する取組事例

学部等	人文社会科学部
取組名	地域未来創生塾@中央公民館
内容等	本事業は、「持続的で豊かな地域創造」をテーマに全5回の講座を開催した。 具体的には、人口減少にともなう様々な地域課題の対策や地域文化資源の有効利用策を模索するために、弘前大学人文社会科学部の教員が、ワークショップ形式で学びを深めた。 [参考URL] https://human.hirosaki-u.ac.jp/irrc/?p=440

学部等	人文社会科学部
取組名	消費者フォーラム in HIROSAKI
内容等	本フォーラムは、地域連携の実践の場として消費者教育の推進に寄与することを目的として開催した。今年度は、誰もが取り残されない地域づくりに向けた、みらいねっと弘前の取り組みについての基調講演、大学生のサポートによる中高生の「消費者市民社会に実現に向けた探究学習」の発表などを行った。 [参考URL] https://www.hirosaki-u.ac.jp/events/100030/

学部等	教育学部
取組名	教員を目指す高校生のためのセミナー
内容等	高校2年生を対象として、大学教員による講義・演習、現役教員による講話をとおして、教員・教職についての理解を深める機会とする。

学部等	教育学部
取組名	弘前大学教育学部附属四校園公開研究会
内容等	「自ら考え 自律的に行動する子の育成」を全体研究テーマとした合同公開研究会を開催した。今年度も対面とライブ配信、によるハイブリッド型で実施。今年度は3回目となり、社会、外国語活動・英語、体育・保健体育の各教科の公開授業や研究協議会を行った。また、元武蔵大学人文学部教授で一般社団法人ジェイス代表理事 武田 信子 先生を講師に招き、『子の学びを邪魔する育て方・しない育て方』をテーマとした講演会を実施。 [参考URL] https://sites.google.com/fuchu.edu.hirosaki-u.ac.jp/public-research-conference/top https://www.hirosaki-u.ac.jp/topics/99274/

学部等	農学生命科学部
取組名	弘前大学農学生命科学部アグリ・カレッジ2024
内容等	日本農業・地域農業と農村地域の将来が危ぶまれる今日、地域に開かれた大学が果たすべき役割として、高校生を対象に将来の地域農業・農村地域の担い手を育成することである。具体的には高校生がオンラインで（週1日×2回）講義を受講することによって、将来の地域農業・農村地域の担い手を目指す意識を育てようとするものである。青森県内高校生を対象に広く広報し、県内10校から22名が参加し、17名が修了した。 [参考URL] https://nature.hirosaki-u.ac.jp/event/18880/

学部等	農学生命科学部
取組名	リンゴとチューリップのフェスティバル
内容等	リンゴやチューリップの花が咲きそろう時期に農場を一般公開し、地域の住民に楽しんでいただくと共に、本学における教育・研究および社会貢献の成果について知ってもらうことで、地域との結びつきをより深めることができた。 [参考URL] https://www.hirosaki-u.ac.jp/events/94601/

学部等	農学生命科学部
取組名	農学生命科学部附属白神自然環境研究センター 「BioBlitz (市民参加型生物調査イベント)」
内容等	県内外から動植物の専門家、市民を集め、本学の「白神自然環境研究センター」において、市民参加型生物多様性調査イベント「白神 BioBlitz 2024」を開催した。2日間で100名以上の市民、研究者などの参加があり、907種を採集し、うちハチ2種が未記載種、複数の昆虫が本県や本州初記録と確認された。 [参考URL] https://nature.hirosaki-u.ac.jp/news/18623/

学部等	医学研究科
取組名	青森県定着枠学生に対する進路面談
内容等	青森県定着枠で入学した学生に対し、相談があれば随時学務委員による進路面談を行い、地域枠対象学生のキャリア相談・支援を行うとともに、青森県内への定着を促している。

学部等	国際連携本部
取組名	青森県連携海外研修プログラム
内容等	本事業は、青森県庁および地元企業との連携により実施された海外研修プログラムであり、学生4名がアメリカでの青森県フェアにおいて観光・県産品PR活動を行うとともに、現地で活躍する日本人との交流や協定校での教育プログラムに参加した。事前には青森県庁での講義や企業訪問を通じて県の文化や産業について学び、帰国後には成果報告会を開催して地域社会への情報還元を行った。これにより、参加学生は課題解決力・協働力・異文化理解力・国際的視野を実践的に習得し、地域への愛着を深めたほか、青森県庁や協定校との連携が強化され、国際交流の裾野拡大にも寄与する成果が得られた。

学部等	被ばく医療総合研究所
取組名	災害支援医療従事者養成講座（履修証明プログラム）
内容等	青森県内外の医療機関、原子力関連機関所属者などを対象に、今後予想される日本海溝・千島海溝を震源とする巨大地震、原子力災害を含めた各種災害発生時に医療従事者の支援が可能な人材育成を目的に令和5年度より開講している。本講座では、「災害原理と防災」（オンデマンド授業15回）、「災害医療の基礎」（オンライン授業15回）、「災害・被ばく医療演習」（対面授業2日間）のカリキュラムを実施し、修了生33名に対して「災害支援医療従事者」の称号を付与した。 [参考URL] https://remcp.hirosaki-u.ac.jp/category/education/

総合窓口

地域活性化や地域課題に関する相談窓口
地域創生推進室

弘前大学 地域創生本部 地域創生推進室

TEL 0172-39-3736

※地域連携推進部門、地域創生人材育成部門も同じ連絡先です。

〒036-8560 青森県弘前市文京町1番地 総合教育棟1階

✉ chiiki_honbu@hirosaki-u.ac.jp



その他お問い合わせ先

ボランティアセンター

弘前大学 地域創生本部 ボランティアセンター

TEL 0172-39-3268 FAX 0172-34-5251

〒036-8560 青森県弘前市文京町1番地 大学会館2階

✉ huvc@hirosaki-u.ac.jp



八戸サテライト

弘前大学 八戸サテライト

TEL 0178-43-1600

〒031-8511 青森県八戸市堀端町2-3 八戸商工会館1階

✉ hachisate@hirosaki-u.ac.jp



青森サテライト

弘前大学 青森サテライト

TEL 017-766-3500

〒038-8505 青森県青森市柳川12-1-1

青森市役所柳川庁舎内1階

✉ aosate@hirosaki-u.ac.jp



国立大学法人 弘前大学

〒036-8560 青森県弘前市文京町1番地

TEL 0172-36-2111 (代表) 弘前大学ホームページ<https://www.hirosaki-u.ac.jp/>

